

平成30年度

始良市若者議会 会議録

平成30年8月8日開会

平成30年8月8日閉会

始良市

平成30年度 始良市若者議会会議録目次

第1号（8月8日）（水曜）

開 会	1
開 議	1
日程第1 会議録署名議員の指名	1
日程第2 会期の決定	1
日程第3 市長あいさつ	1
日程第4 一般質問	2
① 蒲生中学校 田島莉夏議員・市來一葵議員	2
湯元市長	3
② 帖佐中学校 福峰日菜議員・上田和議員	6
湯元市長	6
小倉教育長	7
③ 山田中学校 松元海人議員・山下水輝議員	11
湯元市長	12
④ 重富中学校 加治木梨々華議員・西小野颯瑠議員	18
湯元市長	19
休 憩	
⑤ 加治木中学校 川田絃喜議員・川畑結香議員	22
湯元市長	23
小倉教育長	24
休 憩	
⑥ 蒲生高等学校 上野魁十議員・永岩大翔議員	28
湯元市長	29
小倉教育長	29
⑦ 加治木高等学校 廣川妃菜議員・満園峻輔議員	32
湯元市長	32

⑧ 龍桜高等学校 米徳有華議員・玉利紀香議員	40
湯元市長	41
小倉教育長	41
⑨ 加治木工業高等学校 内村辰良議員・郡山樹議員	45
湯元市長	45
教育長講評	49
市議会議長あいさつ	50
閉 会	51

平成30年度 始良市若者議会会期日程

自 8月8日
至 8月8日
(1日間)

月 日	曜	種 別	開議時刻	日 程
8月8日	水	本会議	午前9時	会議録署名議員の指名 会期の決定 市長あいさつ 一般質問（18人） 教育長講評 市議会議長あいさつ

平成30年度 始良市若者議会議事日程

第1号

8月8日（水）午前9時 開議

日 番	程 号	件 名
1		会議録署名議員の指名 米徳 有華 議員 玉利 紀香 議員
2		会 期 の 決 定
3		市 長 あ い さ つ
4		一 般 質 問
		教 育 長 講 評
		市議会議長あいさつ

平成30年度 始良市若者議会		
平成30年8月8日（水）	開会（議）	午前 9時00分
	閉会（議）	午後12時25分

出席議員 及 欠席議員	番号	氏 名	出欠 の別	番号	氏 名	出欠 の別	番号	氏 名	出欠 の別
	1	田 島 莉 夏	出	4	加治木梨々華	出	7	廣 川 妃 菜	出
		市 來 一 葵	出		西小野 颯瑠	出		満 園 峻 輔	出
	2	福 峰 日 菜	出	5	川 田 絃 喜	出	8	米 徳 有 華	出
		上 田 和	出		川 畑 結 香	出		玉 利 紀 香	出
	3	松 元 海 人	出	6	上 野 魁 十	出	9	内 村 辰 良	出
		山 下 水 輝	出		永 岩 大 翔	出		郡 山 樹	出
	出席 18人 欠席 0人								

本会議書記氏名	事務局長	柊野 信也	事務局課長	迫田 耕蔵
---------	------	-------	-------	-------

説明のため の出席者の 職 氏 名	市 長	湯 元 敏 浩	企 画 部 長	宮 田 昭 二	教 育 部 長	竹 下 宏
	副 市 長	前 畠 実	市 民 生 活 部 長	黒 木 一 弘	水 道 事 業 部 長	脇 義 朗
	教 育 長	小 倉 寛 恒	保 健 福 祉 部 長	松 元 滋 美	総 務 部 次 長 兼 行 政 管 理 課 長	橋 本 博 文
	総 務 部 長	福 留 修	農 林 水 産 部 長	岩 下 直 司	総 務 部 次 長 兼 財 政 課 長	米 澤 照 美
	加 治 木 総 合 支 所 長	水 流 哲 也	建 設 部 長	徳 部 健 一	危 機 管 理 監	庄 村 幸 輝
	蒲 生 総 合 支 所 長	大 山 勝 範	消 防 長	福 々 迫 勇 二	企 画 部 次 長 兼 企 画 政 策 課 長	松 林 洋 一

説明のため の出席者の 職 氏 名	市民生活 部次長兼 生活環境 課 長	福元 義行	農林水産 部次長兼 農政課長	竹下 晃	教育部 次長兼 教育総務 課 長	谷山 浩
	保健福祉 部次長兼 子ども政 策課長	鮫島美保子	農林水産 部次長兼 林務水産 課 長	栢 良信	教育部 次長兼 学校教育 課 長	小林 俊一郎
	保健福祉 部次長兼 社会福祉 課 長	瀬之口明洋	農業委員 会事務長 局 長	湯脇 信一	企画部 地域政策 課 長	原口 浩幸
	建設部 次長兼 用地課長	草水 博行	会計 管理 者	甲斐 一寛		

○議長（上野魁十君） ただ今から平成30年度始良市若者議会を開会いたします。
（午前9時00分開会）

○議長（上野魁十君） ただいま出席している議員は18名全員です。

○議長（上野魁十君） これから 本日の会議を開きます。

○議長（上野魁十君） 本日の日程は、配布しています 議事日程のとおりです。

○議長（上野魁十君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、議長において龍桜高校 米徳有華議員と玉利紀香議員の2名を指名します。

○議長（上野魁十君） 次に、日程第2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

始良市若者議会の会期は、本日1日限りとしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（上野魁十君） 異議なしと認めます。

よって、会期は本日1日限りと決定しました。

○議長（上野魁十君） 次に、日程第3、湯元市長からごあいさつをいただきます。

○市長（湯元敏浩君） 登壇

若者議会の議員の皆さま、おはようございます。暑い中に、この若者議会を傍聴しに来てくれた皆さま方、本当にありがとうございます。きょう、若者議会では皆さま方と一緒に審議をしていきたいと思っております。一生懸命私どもも答えてまいりますので、皆さま方の忌憚のない審議をよろしくお願い申し上げます。

さて、議員の皆さまは、初めて参加される方がほとんどだと思いますけれども、ぜひともきょう一日の議会を経験して、議会制民主主義のあり方、私を含めた市役所の行政のあり方、そして地域に対する役割、そういったものを学んでいただければ私どももこの一日の議会が本当に実のあるものになると思っております。よろしくお願い申し上げます。

現在、なかなか政治に興味がないという方がふえております。そして皆さま方は中学生、高校生という、あと5年、3年すると選挙権が貰える18歳になる年齢になっていきます。皆さま方の年齢は、本当に18歳の選挙権になってからやはり投票率も低く、興味がないと言われていますが、皆さま方の年齢以外にも3

0代、40代の方々、そういった方々もほとんど政治に興味のない方がいらっしゃいます。そうすると、皆さん方がこの地域で何をしたいか、そしてこの地域をどうしたいかという気持ちがなかなか政治に反映しづらい。そして、施政に反映しづらいということになってきます。ですので、きょうの若者議会を通じてぜひとも政治、そして地域の行政がどのような考えを持っているかを、興味を持っていただいて、学んでいただければと思います。

きょう一日限りの議会ですけれども、これから先、これを機会に政治、行政に興味を持っていただいて、しっかりとご自分の考え、地域をどうしたいかということを実は日々考えていただければ幸いかなあと思っております。

そして傍聴席の皆さま、保護者の皆さま、そして先生方、きょうの生徒さんやそしてお子様方が経験したことをきょう限りではなくて、日々の生活で政治、行政に興味を持つような形で導いていただければと思います。

きょうは普通の本会議よりも若干緊張してはおりますが、皆さま方の忌憚のない審議、そして議論を深めていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

本日1日、午前中だけですけれども頑張ってみましょう。よろしくお願い申し上げます。

○議長（上野魁十君） ありがとうございます。

次に、日程第4、一般質問を行います。18名の議員より通告がありました。順次発言を許します。

○議長（上野魁十君） まず、1番、蒲生中学校 田島莉夏議員、市来一葵議員の発言を許します。

○1番（田島莉夏君、市来一葵君） 登壇

皆さん、おはようございます。1番、蒲生中学校の田島莉夏と、同じく蒲生中学校の市来一葵です。

先に通告したJRの駅を中心としたまちづくりについて、くすくす館の活用と蒲生市街地の発展についての2問について質問いたします。

市長は施政方針の中で、JRの駅、特に帖佐駅、加治木駅、重富駅を中心としたまちづくりの構想を示していらっしゃいます。ですが、蒲生町に住む私たちにとっては、隣の町のことのようにも思えてきます。JRの駅を中心としたまちづくりと蒲生とをどのように結びつけていくのか、そのまちづくり構想を示していただきたいです。

蒲生物産館「くすくす館」は、多くの方が訪れ、賑わっています。その一方で地元のお店街は人通りが少なくなっているようにも見えます。

くすくす館をはじめ、蒲生八幡神社や武家屋敷群、古民家なども活用し、もっと

地元商店街が賑わいを取り戻し、多くの人たちが蒲生で楽しく過ごせるようなまちづくりの構想を示して欲しいです。

以上で演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君） 蒲生中学校3年 田島莉夏議員、市来一葵議員からいただいた、2つのご質問にお答えします。

まず、1問目の「JRの駅を中心としたまちづくりについて」のご質問にお答えします。

始良市には、JRの駅が5つあり、通勤や通学の便も良いことから利用者も多く、2016年度の1日当たりの利用者数は、およそ1万500人で、5年前と比較すると、2.24ポイント増加しています。

しかしながら、現状として、駅周辺地域では、駅の利用者を除くと、活気に満ち溢れているとは決して言えない状況となっています。

それぞれの駅の特徴を活かしたまちづくりこそが、活気や賑わいを創り出せるものと考えており、中でも欠かせないものの一つが、駅周辺地域への交通アクセスであると考えています。

特に、バスを中心とした公共交通は、始良市の中山間地域や蒲生市街地とを結ぶ市民生活の足として、さらに充実する必要があると考えています。

現在、帖佐駅と蒲生市街地とを結ぶバス路線は、2路線で1日19便ですが、人口の増加に伴い、バス路線の沿線以外への住宅地の拡大が見受けられることから、本年10月からは帖佐駅を起点に、市役所本庁やイオンタウン始良、船津温泉前、えのきだ団地、横尾口団地を経由して、くすくす館までコミュニティバスで結ぶ路線を運行します。

始良市では、今後も駅を中心としたまちづくりについて、バス路線の新設や見直し、また、新たな移動形態の導入など、市民のニーズやまちの形態にマッチした取組を検討していきます。

次に、2問目の「くすくす館の活用と蒲生市街地の発展について」のご質問にお答えします。

始良市では、昨年度までの2か年間、鹿児島国際大学附置地域総合研究所に業務委託して、市内商工業者景況調査を実施しました。

その報告書で、蒲生地区商店街の現状が分析されていますが、大学生の視点から、「古民家カフェが点在している」「歴史的なまちなみが残っている」「大クスがある」「アットホームな接客対応がある」「常連客を有している」などの評価をいただきました。

その一方、蒲生地区の商店街にあっては、住まいと店舗を兼ねている家屋が多くあるという現状があり、また、事業者からは、「世帯数や人口減少の影響を受けている」「消費者の高齢化が進んでいる」「後継者がいない」などの声もありました。

現在、始良市では、商店街活性化事業として、空き店舗を活用する際の家賃の一部補助を行っていますが、今後とも、さらなる利用拡大を図り、空き店舗の解消や商店街の継続に資するために、制度の見直しも検討していきたいと考えています。

蒲生町物産館「くすくす館」については、2003年のオープン以来、新鮮野菜や農産加工品などが人気商品となり、多くの方々に利用していただいています。

蒲生地区におけるイベントや、まち歩きコースにおいて、「くすくす館」周辺の「蒲生の大クス」「武家屋敷通り」「蒲生観光交流センター」などから、近隣にある商店街へと誘導することで、お客様に蒲生のまちなみを堪能していただけるとともに、商店街の賑わい創出にも相乗効果が生まれるものと考えています。

以上、お答えいたします。

○1番（市来一葵君） 回答の中でバス路線の新設や見直しとありましたが、蒲生からバスに乗って帖佐駅に行く人も多く見られます。しかし、電車の来るぎりぎりの時間でバスが到着するため、電車を逃してしまう人がいるそうです。JRの駅を中心としたまちづくりですので、バスの到着時間と電車の来る時間を連携して欲しいです。具体的には、バスが電車の来る10分前には着くようにはしていただきたいです。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、路線が2路線ございまして、1日19便でございまして、それぞれのダイヤグラムを組みまして運行しているわけでございます。JRとの時刻のマッチングにつきましては、引き続き事業者のほうと検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○1番（田島莉夏君） 市長の回答にありました、市内商工業者景況調査と商店街活性化事業とは、それぞれどのようなものなのでしょうか。私たちにわかるよう、具体的に説明をお願いします。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

市長の答弁にもありまして、国際大学、鹿児島市内にございますが、その大学と連携をしまして調査を行ったわけでございます。特に議員からのご指摘のとおり、商店街におきましては閉めている店とか、後継者がいないとか、色々な問題を抱えております。その中でどのような対策があるかということや若い目線をもって意見、それから調査をしていただくということを目的に行ったものでございまして、さまざまな提言をいただきました。その中で特段すべきものは、加治木にあります、かもだ通り商店街、蒲生にも商店街がございまして、そこに対しまして大型ショッピングセンター、イオンタウンの件でございまして、これ

の影響がかなりあるというふうに予測はしていましたが、しかしながら各個店、各個人経営の商店につきましても市長の答弁にありますとおり、さまざまな良い点がございますので、そこらを更に延ばしていただければ打開策となってくるのではないかなというようにも答申いただいております。

以上でございます。

○1番（市来一葵君） 2016年度の1日あたりの利用者数は、およそ1万500人で5年前から2.24ポイント増えたとありますが、その2.24ポイントというのは、どのようにして調べたのですか。

○企画部長（宮田昭二君） 詳細につきましては、担当課長がお答えいたします。

○企画部地域政策課長（原口浩幸君） 地域政策課の原口と申します。よろしくお願ひします。

JRが毎年この時期に各駅の乗降者数の調査をしたものを発表しています。その中で今言われました、それぞれの駅の毎年の推移というものが一応出されております。日豊本線につきましては、鹿児島中央駅から国分間はそれぞれの駅が乗降者数がわずかではありますけれども延びている状況であるというような結果が出ておりまして、その数字からこの今言われました数字が出ているというようなことでございます。

以上です。

○企画部長（宮田昭二君） 申し訳ございません。1点漏れがございました。

商店街活性化事業でございますが、これにつきましては市長答弁でもありまして、とおり空き店舗を利用した活性化事業でございまして、先ほどの答弁でも申しましたが、商店街におきまして空き店舗となっている店舗につきまして家賃補助等を行いまして、新規の開業を補助するという制度でございまして、蒲生におきましては、現在は店舗だけが対象になっておりますが、将来的には空き家を対象とするとか、1階だけでなく2階の店舗も利用するとか、そういったふうに課題を残しておりますのでこれから検討重ねてまいって、更に使いやすい制度のほうに改正していきたいと思っております。

以上でございます。

○1番（田島莉夏君） 私は蒲生町に10年以上住んでいてとても思い入れのあるまちです。なので、これからも事業やイベントを行い、蒲生町をはじめ始良市全体がにぎわいのあるまちとなるよう努めていただきたいと思います。

以上で質問をおわります。ありがとうございました。

○議長（上田魁十君） これで1番、蒲生中学校 田島莉夏議員、市來一葵議員の一般質問を終わります。

○議長（上野魁十君） 次に、2番、帖佐中学校 福峰日菜議員、上田和議員の発言を許します。

○2番（福峰日菜君、上田和君） 登 壇

皆さん、おはようございます。2番、帖佐中学校の福峰日菜です。同じく帖佐中学校の上田和です。それでは、早速質問させていただきます。

1問目に、休校中の学校について質問させていただきます。

休校している学校が2校ありますが、この学校（校舎）は何か活用されているのですか。もし、活用されていないのであれば、どのように活用しようと考えているのか、教えてください。

2問目に、将来人口について質問します。

始良市は人口8万人を目指していますが、利点を知りたいです。また、人口が増えるということは、子どもとともに高齢者の人口もふえるということになります。具体的にどう対応していくのですか。教えてください。

3問目に、これからの政策についてです。

第1次始良市総合計画は今年で終わるようですが、これからは何か政策を考えていらっしゃるのですか。また、これからどのように始良市民の声をきいていくのですか。お答えください。

以上で、演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君） 登 壇

帖佐中学校3年 福峰日菜議員、上田和議員からいただいた、3つのご質問にお答えします。

なお、1問目の「休校中の学校について」のご質問は、小倉教育長がお答えします。

それでは、2問目の「将来人口について」のご質問にお答えします。

始良市は、県本土では唯一、人口増がみられる“まち”となっており、特に、子育て世代の方々が多く移り住まれ、このことが本市の強みでもあります。

国の機関が発表した「地域別将来推計人口」によると、始良市の人口は2015年をピークに減少する推計となっていますが、始良市が策定しました「人口ビジョン」では、政策誘導により、2025年の人口は8万人を目標としています。

人口がふえることによるメリットとしては、財政の安定と充実、住民サービスや行政能力の向上、コミュニティ機能や住民自治の拡充などが挙げられます。

特に、若者が増加すると、地域経済の成長が期待されます。

人口が増加することにより、それに対応した経費もふえることにはなりますが、

人口減となっても必要な経費は確保しなければなりませんので、全体のパイが大きくなる、人口増のメリットの方が大きいと考えています。

なお、始良市では、高齢者の人口が増えることへの備えとして、今後、需要の増加が見込まれる、看護・介護の分野に対応するため、公立大学法人 短期大学を設置することによる人材育成や、健康寿命の延伸の一助となる「大型グラウンドゴルフ場」の整備などを計画しています。

次に、3問目の「これからの政策について」のご質問にお答えします。

始良市の第1次総合計画は、2012年度を始まりとし、本年度、2018年度を最終年度としています。

したがって、本年度中に、来年度から8年間の「第2次総合計画」を策定することとしています。

第2次総合計画の策定にあたっては、この計画に市民の声を反映させることが重要ですので、昨年度実施しました「市民満足度調査」「まちづくり50人委員会」「まちづくりカフェ」での意見集約や提言などを活かしていきます。

また、本年度は、市内17の小学校区ごとに設置している「校区コミュニティ協議会」との意見交換を行っており、ここで出された意見や提言も、総合計画に反映させたいと考えています。

さらに、本日の「若者議会」において、皆さんからいただいた意見や提言についても、参考にさせていただきます。

なお、計画策定の過程においては、市民の代表で構成する「総合計画審議会」での審議を経て、計画原案がまとまった段階で市民の方々からの意見募集、「パブリックコメント」も行う予定としており、最終的には市議会の議決を経ることとしています。

これまでの政策についても、継続すべきは継続していきますが、これからの政策については、私の施政方針に掲げています「教育」「まちづくり」「子育て世代への支援強化」「生きがいのある始良市」の4つの柱を中心に組み組んでいきたいと考えています。

○教育長（小倉寛恒君）

登壇

1問目の「休校中の学校について」のご質問にお答えします。

ご質問の休校中の2校とは、蒲生地区の大山小学校と新留小学校のことと考えます。

大山小学校は、地元の意向もあって、平成27年12月に廃校措置とし、翌年4月からは始良市内の企業が工場、事務所として活用しています。

また新留小学校は、現在、休校措置しているところから教育財産として、地元の行事や地域振興、地域おこしなどの活動等のため、申請があった場合に限り、ご利用いただいているところです。

なお、学校の建物を商業施設や事務所などとして、教育目的以外に活用するた

めには、廃校措置にしなければなりません、一旦、廃校となった場合は、休校とは異なり、二度と学校を再開できないことになります。

したがって、廃校とするためには慎重な検討が必要になります。

以上、お答えいたします。

○2番（上田和君） 1問目の休校中の学校についてのお答えについて、質問します。地元の事業や地域振興、地域おこしなどと挙げられていましたが、具体的にはどのようなものか教えてください。

○教育部長（竹下宏君） お答えします。

いま現在、休校になっている小学校は新留小学校です。新留地区の自治会とか地域の方々がイベントをされる、もしくは行事をされる場合に地域の活性化のために使いたいということであれば、それに対して教育委員会は許可をしています。

以上でございます。

○2番（福峰日菜君） 2問目の将来人口についての市長のお答えに質問します。

住民サービスや行政能力の向上とありましたが、具体的にはどのようなことですか。

○総務部長（福留修君） 人口がふえて何がいいのだろうということですが、一番大きなものは、財政に力がつくということです。例えば国から、私たちは交付税というのをもらっていますが、その交付税を計算するのは人口が何人いるかということで計算をします。ですから、たくさんの人口があればたくさんの交付税がもらえます。

そしてまた、そこに住んでいる人たちが納めてくれる税金の金額もたくさんふえてきます。

ですから、人口がふえてくると住民の方がたにサービスをするための経費であるお金が、少しほかよりかは多くなるということで、人口がふえることに対して私たちも期待しているところです。

○市長（湯元敏浩君） 人口がふえることによって様々な考えをもった人たちが始良市にやってきます。それを多様化といいます。その多様化をすることによって、ものすごくまちに活気が出てきます。そしていろんな考えをもった人たちが、このまちをどうしようかと考えていただけます。勿論、いま担当部長がお答えした財政的にも潤うことになりますが、人材的にも潤うということになってきます。そのことに期待しています。

以上でございます。

○2番（上田和君） 将来人口について、もし人口が減少し始めた場合は、どのような政策を始めるのですか。お答えください。

○市長（湯元敏浩君） 仮定の話には、どの方面で答えればいいのか、いろんな方面があると思いますが、もし人口が減り始めたら、というところを考えながらいま人口がふえているときに考えなければならないと考えています。

例えば災害だったら、何も起きていないときに災害が起きたらどうしようか。これが未来を考えることだと思っています。人口が減り始めてきたら、まちづくりのことも、いろんなものを見直さなきゃいけないと思います。

今の段階では、2025年までのこの七、八年間の人口増加を維持しながら、そしてそれに向けてまちづくりをしていくということを考えております。それが完成した折に、万が一、将来的に人口が減ってくるということであれば、そこで対応をしていかないといけない。

しかし、始良市は県内で唯一人口がふえています。ということは、始良市以外は人口が減っているということなんですね。始良市以外のまちが減っていることに対して政策をどんどんやっています。つまり先進事例があるということです。いろんな市町村がトライしているものがあります。それを見習いつつやっていくのも方法の一つかなと思っています。

○2番（福峰日菜君） 将来人口についての回答のなかに、健康寿命の延伸の一助となる大型グラウンドゴルフ場の整備などを計画していますとありましたが、何故、介護施設などを増やすのではなく、大型グラウンドゴルフ場の整備にしたのですか。

○市長（湯元敏浩君） 高齢化というのは、これから進んでいきますね。そして、皆さん平等に年をとっていきます。そのなかで、ご病気になられてからの、体が弱ってからのケアも大事ですが、ご病気になる前のケアが大事になってきます。これを健康寿命といいます。健康のまま、お年をとっていく。そのためにスポーツや生涯勉強やそういったものをしていくことが大事になってくる。

その一環として始良市はグラウンドゴルフというのが、ものすごく盛んに行われています。多分、おじいさま、おばあさまもやられているかとは思いますが、始良市のプレイヤー人口が一番多いと言われています。そのグラウンドゴルフで皆さん健康でずっと年齢を重ねていただいて、病気になっている時間を少なくするというのが健康寿命という概念ですから、それを維持したいなということで、グラウンドゴルフ場の設置を考えております。

以上でございます。

○2番（上田和君） 3問目のこれからの政策についての市長のお答えについて質

問します。総合計画審議会で審議を経て、計画原案がまとまった段階で市民の方々から意見を募集するというのがありましたが、私たちのような中学生から意見を集めてはどうでしょうか。この本会議の若者議会で意見を募集するというのもありますが、私たち少ない数名だけの意見では深い意見が出るとは思わないので、各中学校、高校にアンケートを募集してはどうでしょうか。

○企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君） ただいま非常に参考になるご意見をいただきました。こういった方向でできるか検討いたしたいと思います。ありがとうございます。

○2番（福峰 日菜君） 3問目のこれからの政策についての回答のなかに、市民満足度調査、まちづくり50人委員会、まちづくりカフェの意見の集約や提言とありましたが、具体的にどのような意見が出たのですか。

○企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君） まず市民満足度調査でございますが、これには様々な設問がございまして、特に私どもが注目しているのは重要度が高く満足度が低いものと市民が感じていらっしゃるもの、具体的には子育てを支援するための基盤整備の促進であるとか、学校教育の充実であるとか高齢者が安心して暮らすための環境整備。この辺りについて、市民の皆さん方が重要度が高く満足度が低いと感じていらっしゃるのでこの辺りについて、第2次の総合計画のなかに政策として反映していけたらと考えているところです。

あと、まちづくり50人委員会については4つの分野に分けてそれぞれ、ご意見をいただいているところです。これも様々なございまして、自然を活かして自然体験をする環境整備とか、先ほど出ましたグラウンドゴルフ場の整備とか、そのような様々なご意見等をいただいているところです。

ここで全部を紹介するのは時間的に無理がございますので、一応紹介だけしておきます。

以上です。

○2番（上田和君） 1問目に質問しました休校中の学校について、もう一度質問させていただきます。私の出身の三船小学校は現在近隣の建昌小学校や松原なぎさ小学校などに比べて全校生徒の数が非常に少なく、休校になる可能性は低いかもしれませんが、始良市内でも休校になりそうな学校はあると思います。そのような学校が出てきた場合はどうしますか。お答えください。

○教育長（小倉寛恒君） 議員の出身の三船小学校は平成22年の合併当初は80数名の児童でございました。それから本年度は136名。50人位ふえています。来年は150人を越える予定です。三船小学校一帯に住宅地がいっぱいで

きていまして、今後、右肩上がりでふえていく可能性の高い場所です。

それから中山間地域。いわゆる山間部にある学校は、非常に小規模校化して、さらに児童数は減ってきているわけですが、特認校制度という下の数の多い学校から、その学校を選んで上がっていくという形をとっております。しかし地元の子どもたちが減ってきているわけですから、地元の子どもが全くいなくなってしまう場合は特認校もできなくなってしまう。

ということで、地元に住居促進住宅というかたちで住宅をつくっていただいて、希望される方はそこに入っていただいて地元の子どもたちをふやして、始良市街地にはたくさんの児童はあふれていますので、そういう方々をスクールバスで通学していただいているという状況です。いわゆる中山間の小規模校にも手厚く取り組んでいる状況であります。

○2番(福峰日菜君) 3問目の回答のなかに、これまでの政策についても継続すべきは継続していきますとありますが、いまの時点で何の政策を継続していこうと考えているのですか。

○総務部長(福留修君) 政策のなかで一番大事なものは、保健福祉医療関係に関わる施策です。さきほど、少し介護の施設だとかいう話もされましたが、そういった施策もいまずっと続けております。そして、それを地域のみなさんと一緒に取り組んで、病院や施設に入所するだけが老後の過ごし方ではないと。地域の自分の家にずっと住み続けながら最期を迎えるというような施策も進めておりますので、そういった施策も続けるべきは続けると。

今後また、道路工事なんかもですがスマートインターチェンジをつくろうということで一生懸命工事をしていますが、そういった工事も最後まで仕上げるまで続けていこうと。

そしてまた、市長が変わられたことによって、市長の新しいお考えを入れながら新しい施策も入れていこうと考えているところです。

○2番(上田和君) 大変丁寧な回答をいただきありがとうございました。よく理解できました。以上で質問を終わります。

○議長(上野魁十君) これで2番、帖佐中学校 福峰日菜議員、上田和議員の一般質問を終わります。

○議長(上野魁十君) 次に、3番、山田中学校 松元海人議員、山下水輝議員の発言を許します。

○3番(松元海人君、山下水輝君)

登壇

皆さん、おはようございます。山田中学校の松元海人です。同じく山下水輝です。では早速質問をさせていただきます。

まず、始良の施政方針にあった「公立大学法人短期大学」の設置についてです。そのなかから、4点質問させていただきます。

1つ目、何を学ぶための大学か。何学部を考えているのか。

2つ目、始良市民から「大学がほしい。」という声があるのか。

3つ目、志學館大学は霧島市では学生数が確保できず、鹿児島市に移転した。跡地は廃墟となっている。同じようにならないか。

4つ目、大学の新設ではなく、現在ある小・中・高校施設安全対策にお金を使ってほしい。

地方債（市債）が多い中、巨額なお金がかかる重大な議題なので、回答をお願いします。

次に、山田橋の危険性についてです。今年新しくつくられた山田橋には片側しか歩道がなく小中学生が通学路としている場所に横断歩道がないため朝は登校指導の先生がいらっしゃるのですが、下校時は登校指導の先生はいらっしゃらないので、生徒たちの自分の判断で横断歩道を渡らないといけなく大変危険です。山田橋をつくるときに歩道などの件は話し合っただけで決めたということですが、住民の意見を聞いてからつくることはできなかったのでしょうか。これからでもできる交通安全対策をしてほしいです。例えば、歩行者・自動車専用橋を造る。横断歩道を造る。注意看板の設置などをしてほしいです。ほかにも山田校区には通学路の歩道が突然途切れている場所がたくさんあります。歩行者のことを考えた道造りをしてほしいと思います。

もう一つの質問をさせていただきたいと思います。県民の森、スターランドAIRAの利用についてです。校区内に県民の森やスターランドAIRAがあるのですが、あまり利用されていない気がします。現地までの道路も整備されておらず、荒れている気がします。新しい施設を造るのではなく、現存する施設の利用がふえるようにたくさんの対策をしてほしいと思います。

○市長（湯元敏浩君）

登壇

山田中学校3年 松元海人議員、山下水輝議員からいただいた、3つのご質問にお答えします。

まず、1問目の「『公立大学法人短期大学』の設置について」の1点目のご質問にお答えします。

公立大学法人による短期大学には、2025年問題に象徴されるように、超高齢社会を迎える備えとして、今後とも需要の増加が見込まれる、例えば、看護に関する学科の設置を考えています。

2点目のご質問にお答えします。

始良市の人口移動をみると、15歳から24歳までの若年層の転出が超過して

おり、これは、進学や就職に伴い、首都圏などへの転出が多いものと推測され、これが始良市の弱みでもあります。

このため、この年齢層の若者を始良市に引きとめ、引き寄せる策の一つになる、まさに、県の中央部に位置する始良市にふさわしい事業であると考えています。また、過去においても、高等教育機関の誘致活動があったことも聞いており、私がこれまで市民の皆さんと膝を交え、意見交換をさせていただいた際にも、ご意見としてお聴きしています。

3点目のご質問にお答えします。

霧島市にありました志學館大学が鹿児島市に移転した理由は、系列の短大との連携強化による教員間の共同研究や交流、単位互換制度の利用促進など、様々な要因が挙げられています。

始良市における公立短期大学の設置にあたっては、市内にあるJRの駅を活用するなど、学生にとって利便性の高い場所への設置を検討し、過去の事例等も活かした調査・研究を進めることとしています。

4点目のご質問にお答えします。

学校の施設安全対策は、大変重要なことであり、危険な場所の早期発見に努め、改修を行っているところです。

皆さんもご承知のとおり、6月18日に発生した大阪府北部地震では、ブロック塀の倒壊による痛ましい事故が起きました。

始良市教育委員会では、その地震発生の翌日に、市内全ての小・中学校と、公立幼稚園の敷地内にあるブロック壁などの点検を行い、危険と思われる箇所については、直ちに補修工事を行ったところです。

今後とも、学校施設の安全対策は、年次的かつ計画的に行っていきます。

また、公立短期大学の設置については、有効な地方債などの研究を行い、経費についても概要等をつかみ、財政計画や財政シミュレーションを行い、市の財政負担などを考慮し、慎重に進めていきます。

なお、「地方債」は、例えば2015年に開校した「松原なぎさ小学校」など、その年の大きな事業に充てるために発行しています。

「地方債」の発行という手法は、大きな事業があった年の予算額を平準化するとともに、その施設などを将来にわたり利用する市民の方々が、等しく担っていく観点からも必要な措置であります。

次に、2問目の「山田橋の危険性について（通学路に歩道がない）」の1点目から4点目までのご質問は、関連がありますので一括してお答えします。

新しく歩道を設置する場合は、小学校や保育園などの位置、利用者の数、また、既にある歩道の位置など、周辺の状況を総合的に考慮して計画しています。

鹿児島県 始良・伊佐地域振興局に確認したところ、山田橋の場合、小学校側に既に歩道があったことから、現在のような歩道を設置されたとのことでした。

また、山田橋の架け替え工事に際しては、地域の代表者の方に事業説明を行っ

たところでしたが、地域の方々に十分周知されなかったことを踏まえ、今後、事業を進める際は、出来る限り、地域の方々の意見をお聴きしながら進めていきたいとのことであります。

また、ご指摘のとおり、西田地区以南から通学する児童・生徒の皆さんは、一度、橋の手前で道路を横断する必要があります。

始良・伊佐地域振興局では、その対応策として、横断歩道を安全な場所に設置するなどの方法を考えており、今後、学校や警察、地域の方々と安全対策について協議していきたいとのことであります。

さらに、始良市では、通学路の歩道の設置について、利用者のご意見を踏まえた上で、始良・伊佐地域振興局に要望したいと考えています。

次に、3問目の『『県民の森』『スターランドA I R A』の利用について』のご質問にお答えします。

北山地区を通る、県道 十三谷・重富線は、狭い道幅でカーブも多い道路であり、地域住民の方々からも道路の拡幅改良に関する整備要望が、始良・伊佐地域振興局に提出されています。

始良・伊佐地域振興局においては、計画的に道路改良整備を施工されているところであり、始良市としましては、今後も計画的かつ継続的に道路整備を行っていただけるように要望していきます。

また、県民の森は、設置目的を「県民の保健休養の場とするとともに、体験学習を通じて、森林・林業や緑化に関する知識の向上を図ることにより、森林愛護思想の高揚に資する」とし、1984年に設置され、区域面積はおよそ1千ヘクタールといわれています。

スターランドA I R Aは、「天体の観測や研修機会の享受をとおして、天文に関する知識の高揚、地球環境への関心の向上を図るための生涯学習の場」として、1993年に大型の天体望遠鏡やプラネタリウムを完備した天文施設として設置しました。

これらの施設では、設置目的が達成できるように、1年を通じて、いろいろなイベントを計画しています。

例えば、県民の森では、毎月何らかのイベントの開催が計画されており、本年度も4月の親子たけのこ堀り体験など33種類、延べ37日のイベントが開催される予定です。

このような取組もあって、年間およそ12万人の人々が、県民の森を訪れているようです。

また、地元の北山校区コミュニティ協議会と協力して「県民の森 ウォークラリー」のイベントを行うなど、過疎化が進む地域の活性化にも貢献しています。

一方、スターランドA I R Aも、本年4月から9月までの間だけでも、季節ごとのプラネタリウム番組3種類、オリジナル星座早見盤づくりやロケット打上げ会など工作教室を10回、太陽観察会を6回、星空観察会などを16回開催する

計画になっており、昨年度は、延べ4, 646人の方々が利用されています。

このように、利用者の手助けとなるように、設置目的に即したイベントなどを計画して提供しています。

始良市では、今後も、施設設置の趣旨やイベントなどの内容を広く市民の皆さんへお知らせすることを工夫しながら、利用しやすい施設運営に努めていきたいと考えています。

以上、お答えといたします。

- 3番(山下水輝君) 公立大学設置について質問です。始良市には中学校卒業時に看護師を目指す生徒のためには龍桜高校看護学科があります。また、高校卒業時や社会人のためには加治木看護専門学校があります。これ以上、始良市に看護を学ぶ大学が必要とは思えません。そこまで大学が必要な理由をお聞きしたいです。また、他の学科の設置は考えておられますでしょうか。

- 市長(湯元敏浩君) 始良市には龍桜高校鹿児島学園をはじめとした看護に対する専門学校があることは、十分に承知しております。始良市だけを考えて大学では、私がつくろうとしている大学ではありません。始良市の位置、アクセスの良さ、JRが5駅ある。そして高速道路がある。インターチェンジが、スマートインターチェンジが加わると3つあるという、この利便性を利用して鹿児島県内全部から、そして熊本県、宮崎県にいたるまでそういった所の学生さんも来やすい位置になっています。そういった方々の、若者の流入も一つの目的です。

ですから、専門学校の鹿児島学園とは共存共栄でいけるかたちで様々な話合いも、していこうと思っておりますので、そこは皆さま方に選択肢を多くする、皆さん方の年代の方々に将来の選択肢多くする意味でも一つの高等教育機関というのは始良には必要だと考えております。

以上でございます。

- 3番(山下水輝君) この大学の設置には始良市に人をとどめるため、というのがありますが、そのためには始良に住んでいる人たちにとって何か優遇がなければ人はとどまらないと思います。それについて意見を聞きたいです。

- 市長(湯元敏浩君) 学校のあり方については、これからまた詰めていくことになりますが、勿論地元の若い人たちが高等教育にふれて学ぶということは当然必要なことだと思いますので、そこは何らかの処置をしていく案はあります。

そして、プラス社会人教育、そしてそれに加わる地域の人たちの交流の場、そういったものも含めてランドマーク的な部分でまちづくりに貢献していくという役割もございます。

以上でございます。

○3番(山下水輝君) 始良市に公立看護大学を設置するためには、一体どれくらいのお金が必要なのでしょう。

○市長(湯元敏浩君) まず運営にかかるお金。これは、国の補助がございます。公立大学法人ならではの補助がございます。補助といっても交付金にはいつてきます。こうした補助があつて運営をしていきます。当然、学費もあります。これは、他の私立の大学よりも非常に安い年間学費でやっていきます。

そして、校舎をつくる、キャンパスをつくることについても、公立大学ならではの国の助けがあります。高齢化社会にむかつての国の施策にのつとつた財源の確保ができるようになっています。

以上です。

○3番(山下水輝君) その具体的な数字で聞きたいのですが、一体どれくらいお金がかかるのでしょうか。

○企画部次長兼企画政策課長(松林洋一君) 公立大学法人による短期大学の設置につきましては、その規模について検討段階でございます。したがいまして、国のほうで定めている設置基準といったものもございますので、規模が大体の目安として固まった段階で、その設置基準に応じて建屋の規模を決めていく。それによって試算をしていくということになろうかと思ひます。

したがいまして現段階で、具体的な数字をお示しできる段階ではないということとでござひます。

○3番(山下水輝君) 私たち始良市の中学生は、始良市に看護大学の設置ではなく始良市内の中学校、小学校の校舎や体育館の整備や安全対策をしてほしいです。山田中学校には、校舎がゆがんでいて閉まらない窓ガラスがありました。閉まるようになりましたが、校舎が傾いているのでは地震が起こったときのことを考えると恐ろしいです。市内の学校のほとんどが老朽化しているはずでひす。

また、この7月は熱中症危険警報が鳴るくらいのなかで汗をたらしながら授業をしまひました。

始良市の中学生は看護大学を設置するお金があるのなら、始良市内の小学校、中学校の普通教室にもクーラーを設置してほしいと考へています。

○教育長(小倉寛恒君) 学校の施設の整備に関しましては、毎年、それぞれの学校の校長先生方から意見を聴取して必要な措置は講じております。確かに学校の中には、かなり老朽化した校舎もござひます。今後、それらについては長寿命化、できるだけ長く活用できるような方策、それから大規模な改修計画を立案しながら

進めていく予定でございます。

クーラーの設置に関しましては、5番目の加治木中学校の質問で出ておりますので、その中でお答えしたいと思います。

○3番(松元海人君) 2問目の質問の山田橋の危険性について(通学路に歩道がない)の再質問です。現在現場では毎日危険な思いをして生徒は登校しています。警察、学校、地域の方々と安全対策について協議されるとのことですが、確実に横断歩道が設置されるのはいつごろなのか。

また、それまでに生徒の安全確保ができるようにするためには、他の対策があるのかお聞きしたいです。

○建設部長(徳部健一君) お答えします。

まず山田橋付近の横断歩道の設置ということですが、以前の山田橋の解体の時期に小学校、地域の方々と、どういった通行のやり方がいいかということを始め警察署も交えて、現地でどこに横断歩道をつくったらいいとか、まだほかに方法があるのではないかと、その時に検討しております。

横断歩道の第一候補としましては、保育園のそばが地域の方々にとって利便性がいいということでありましたが、警察の見解では道路が上って下りてということで運転者が前が見づらく、なかなか確認ができない。そしてカーブのなかの横断歩道ということで警察としてはここでは認められない、かえって事故が発生するということで、その後、県のほうでは西田地区から南側へ道路の両側へ歩道を延ばしていこうという考え方でおります。その中で、直線部分があれば警察のほうも設置が可能ということで検討しておりますので、今後、その計画を煮詰めていかれるというのはお聞きしております。

その間の安全対策としましては、始良・伊佐地域振興局と学校の方でもPTAと話し合いをされて、現状となっておりますので今しばらく時間をいただきたいということでございます。

以上です。

○3番(松元海人君) 3番目の県民の森、スターランドAIRAの利用についてです。入場料もなく来場者のチェックもないのに、どうやって県民の森の年間利用者数が12万人といえるのでしょうか。

○総務部長(福留修君) こういったイベントのときにやる方法としては、一つのイベントがあったときに、そのエリアにどのくらいの人 coming かなと予測します。例えばその50メートル、50メートルのエリアの中に何人いるかな、皆さんがいらっしゃるのかなとみて、そのエリアの中の3つ部分はいから150人はいるなど。ですから正確な数字ではございません。しかし、どのくらいの人

が行き来しているかという目安をとらなければいけないので、そういったかたちで計算をしています。

始良市内の観光地にどれだけの人が来たかとか、夏祭りに何人の人が来たかというのをみるときも、そういったやり方で計算をします。

○3番（山下水輝君） 質問はもどるのですが、地方債、市債についてです。将来にわたって公平分担するとの回答は無責任に感じます。私たち若者に借金を押し付けるのはやめてほしいです。国の政治も同じですが、借金があつて当たり前ではなく借金を減らしていく政治、借金を減らしていく努力を始良市からしてほしいです。そして、そうするための策を考えてほしいです。

○総務部長（福留修君） 確かに、借金をしていろいろなことをするというのは、そういった意味での倫理観ということであれば良いことかな、悪いことかなということで考えると、お金は借りないにこしたことはないかなという考え方も一つあります。ところが、例えばいまみんなが欲しいなと思っている施設をひとつ作って、それをその時のお金がそのままスポンと始良市の財布からなくなるわけではなくて、毎年、それを分割して払うことで、そのお金の支払いは少なくなります。そしてそれを何年もつなげてやっていくことで、始良市の財政の負担というのも、毎年払うお金というのは小さくなっていきますからそれで負担が小さくなるという考え方があります。

そしてもう一つは、将来の人が借金を返すという意識ではなくて、将来の人が早めに作った施設を、あとの人が負担するという考えかたもあります。例えば、ある公園を作った。その公園を来年、再来年の人も使うと。だから、その使う人が負担するんだという考え方で、お金を借りるという考え方もありますので、実は家庭での借金の仕方とは意味合いが少し違って始良市の財政をする場合には経済学という考えかたも使いながらお金を借りて運用をしているというのが実態です。

○3番（松元海人君） とても詳しいいろいろなことを再質問に対して言ってくださりとても参考になりました。ありがとうございました。

○議長（上野魁十君） これで3番、山田中学校 松元海人議員、山下水輝議員の一般質問を終わります。

○議長（上野魁十君） 次に、4番、重富中学校 加治木梨々華議員、西小野颯瑠議員の発言を許します。

○4番（加治木梨華君、西小野颯瑠君） 登壇

皆さん、おはようございます。4番 重富中学校の加治木梨々華です。同じく

重富中学校の西小野颯瑠です。質問をさせていただきます。

1 番、始良市のまちづくりについてです。

人口増加にあたって、より住みやすい始良市にするためにインフラ整備や観光について行っていること、もしくは今後行おうとしていることを教えてください。

2 つ目に、外国人への対応についてです。

2020 年の東京五輪において外国人観光客がふえると思われますが、その際に外国人向けのサービスについて始良市が取り組んでいることを教えてください。

3 つ目に、地域交流についてです。

今年は明治維新 150 年、2 年後にはかごしま国体と鹿児島に注目が集まる機会がふえますが、鹿児島を盛り上げるために、始良市とその他の地域との交流など具体的な取組があれば教えてください。

以上で演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君）

登壇

重富中学校 3 年 加治木梨々華議員、西小野颯瑠議員からいただいた、3 つのご質問にお答えします。

まず、1 問目の「始良市のまちづくりについて」のご質問にお答えします。

始良市の人口は、県本土では唯一増加を続けています。

また、東洋経済新報社が全国 814 の市区を対象とした「住みよさランキング」では、始良市が 3 年連続して鹿児島県内一の評価を受けています。

始良市では、2025 年の人口目標を 8 万人と定め、今後ともインフラ整備を進めるとともに、観光政策による交流人口の増加を定住人口につなげる対策を行っていくこととしています。

インフラ整備については、スマートインターチェンジや周辺道路の整備、街路や市道の整備、橋梁の整備や維持を計画的に進めていきます。

また、道路冠水や住宅浸水への被害の軽減を図るための対策や、駅前の整備などについても計画的に進めることとしています。

併せて、複合新庁舎の整備についても、市民の皆様の理解を得ながら進めることとしています。

観光については、“まちあるき”など着地型観光やイベントの充実により、交流人口の増加やリピーターを増やす方策を進めていきます。

さらに本年度は、錦江湾の名の発祥の地である加治木地区の黒川岬の対岸に展望公園を整備するとともに、来年は、始良市に数多くの歴史的遺産が、今も伝承される「島津義弘公 没後 400 年」を迎えることから、顕彰事業を検討していきます。

次に、2 問目の「外国人への対応について」のご質問にお答えします。

今年は、明治維新 150 年と大河ドラマ「西郷どん」ブームに乗って、鹿児島県への観光客数が急増しており、また、始良市においても、「龍門司坂」「精矛神

社」「重富海岸」「掛橋坂」の4か所が、大河ドラマのロケ地となったことから、多くの方々にお越しいただいています。

始良市では、これらの傾向とともに、2020年に迎える東京オリンピック・パラリンピックの開催などにより、外国人観光客が急激に増加することを見据えて、昨年度、いくつかのインバウンド対策を行いました。

まず、龍門司坂や掛橋坂などの観光ポイントに、英語・韓国語・中国語など、5か国語を表記した観光案内看板12基を設置しました。

また、龍門滝、重富海岸、蒲生観光交流センターの主要3地点には、Wi-Fi通信環境を整備するとともに、観光アプリ「ココシルあいら」を導入しました。

「ココシルあいら」は、タイ語を加えた6か国語対応であり、観光ルートを音声でガイドする機能も備えていることから、外国人観光客が求める現地の情報収集のサポートに大いに役立つものとなっています。

次に、3問目の「地域交流について」のご質問にお答えします。

今年は、明治維新150年と大河ドラマ「西郷どん」放映に始まり、来年は、始良市にゆかりのある戦国武将の島津義弘公 没後400年、そして、再来年の2020年は、かごしま国体と、鹿児島県や始良市にとって、交流人口の増加が期待されるビッグイベントが待ち受けています。

そのような中、始良市では、昨年度、鹿児島市や指宿市などの自治体と連携して、明治維新150年をPRするために福岡市でイベントを行い、特産品の販売や観光パンフレットの配布を通して、始良市のPR活動を行ったところです。

また、始良市は、島津義弘公に関わりが深い、日置市、湧水町、宮崎県えびの市とともに、「三州同盟会議」を結成しており、毎年、これら3市1町が一体化した島津義弘公 顕彰事業を展開しています。

このほか、鹿児島市、霧島市、垂水市と結成した「錦江湾奥会議」では、錦江湾の魅力を発信しながら、防災・環境・観光などに関わる協働施策を展開するとともに、「桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会」に参加し、鹿児島市や垂水市と連携しながら、日本ジオパーク、世界ジオパーク認定に向けての機運を高めています。

以上、お答えといたします。

○4番（加治木梨々華君） 1問目についての質問です。まちあるきということは休憩場所の確保なども必要だと思いますが、その点につきましてはどのように考えていますか。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

まちあるきにつきましては、休憩場所それからトイレ等も必要であると考えています。しかしながら全ての場所にそれをつけるとなると、効率の面、費用の面もありますので、どこが先に必要であるかという優先順位を考えながら、必要な場所については建設していきたいと考えます。

以上でございます。

○4番（西小野颯瑠君） 2問目の質問の回答に、「ココシルあいら」を利用しましたが、ココシルあいらを外国人に利用してもらうためには、まず知ってもらわないといけないと思いますが、どのように知ってもらおうと思いますか。

○企画部長（宮田昭二君） いわゆる「ココシルあいら」につきましては、皆さんもお持ちのスマートフォンのアプリでありまして、インターネットを介して利用することができます。したがって昨今の外国の方々はパンフレットをもとに各観光地を訪れるのではなくて、インターネットを介してご自分で行きたい場所を探すということをしていらっしゃると思いますので、当市のホームページ、もしくは観光協会のホームページ等で広報してまいりたいと考えております。

○4番（加治木梨々華君） 3問目の地域交流についてです。いまの回答は市長などが取り組んでいることでしたが、私たち姶良市民はどのような取組ができるか教えてください。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

議員ご指定のとおり、いまお示したのは自治体を中心となって広域に連携している取組でございますが、なかなか子ども同士、生徒同士が交流する場というのが特に観光とかではないようですので、先ほどの総合計画でもありましたが、そういった生徒、児童の皆さんの意見を聞く場も現在あまりないですので、皆さん方からのいろんな意見を聞くためにも市内の小・中・高等学校もそうですが近隣の霧島市、鹿児島市等の学校との連携も模索してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○4番（加治木梨々華君） 1問目についてです。交流人口の増加を定住人口につなげる対策とありますが、どのようなことですか。

○企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君） まずは観光によるイベント等によって、それを繰り返すことによって何度も姶良市に足を運んでいただく。そのことで、姶良市っていいところだよねといったことに気づいていただけるとありがたいなと。それを定住につなげていくといったような政策として考えているところでございます。

以上でございます。

○4番（西小野颯瑠君） 3問目の回答に出てきた取組は、来年や鹿児島国体後も継

続していこうとお考えですか。また、これから始める取組の予定がありますか。

○企画部長（宮田昭二君） お答えいたします。

お示ししました広域連携につきましては、特に三洲同盟につきましては、義弘公没後400年。これに向けての結成でございましたが、当然これは水の流れのごとく来年以降も引き続き連携を深めていくことになると思います。

また、湾奥会議、ジオパーク等の協議会につきましても様々な議論をこれからも重ねていきたいと考えております。

以上でございます。

○4番（加治木梨々華君） 大変丁寧な回答をいただき、よく理解できました。

以上で質問を終わります。

○議長（上野魁十君） これで4番、重富中学校 加治木梨々華議員、西小野颯瑠議員の一般質問を終わります。ここで、しばらく休憩します。5分程度とします。

（午前10時31分休憩）

○議長（上野魁十君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午前10時35分開議）

○議長（上野魁十君） 次に、5番、加治木中学校 川田絃喜議員、川畑結香議員の発言を許します。

○5番（川田絃喜君、川畑結香君）

登壇

加治木中学校3年 川田絃喜です。同じく加治木中学校3年 川畑結香です。

先に通告した、街灯の設置数増加について、学校へのクーラー、冷水機の設置について、大雨などの災害への対応についての3問について質問します。

まず、街灯の設置数増加についてです。

少し大通りを離れると、道が暗くなります。特に冬場の帰り道などは暗く、心細い思いをして通行しています。防犯上、危険であると考えられますが、防犯対策として、安全性を向上させるために市としてはどのような対策を今後計画していますか。また、街灯の増設や防犯カメラの設置も要望します。

2つ目に、学校へのクーラー、冷水機の設置について質問します。

現在の加治木中学校にはクーラーがなく、夏の暑さが厳しく、暑さに負けて授業に集中できていない生徒がいます。学力向上のためにも、クーラーを設置してほしいです。また、夏は水道水が温く、回転する蛇口も少ないため、水分補給に支障をきたしています。熱中症対策のためにも、冷水機を設置してほしいです。

3つ目に、大雨などの災害への対応について質問します。

大雨が降って市街地が浸水し、多くの人が亡くなったり被害を受けたりしたというニュースを聞きました。始良市では、災害に強いまちづくりのために、大雨などの災害に対してどのような施設の整備・対策を行っているのか教えてください。

また、始良市は、災害に対する意識が低く、施設を活用する力がかけているように感じられます。災害による被害拡大を防ぐ対策として、施設の整備とともに、災害が発生したときにどのような施設を利用したらよいか、市民に発信するとよいと思われます。

また、先日行われた緊急地震速報を受信した際の行動訓練を中学校でも実施しましたが、その成果と課題および今後の対応について教えて欲しいです。

以上で演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君）

登壇

加治木中学校3年 川田絃喜議員、川畑結香議員からいただいた、3つのご質問にお答えします。

なお、2問目の「学校へのクーラー・冷水機の設置について」のご質問は、小倉教育長がお答えします。

それでは、1問目の「街灯の設置数増加について」のご質問にお答えします。

始良市では、「安全・安心まちづくり条例」において、市民の方々が安全で、安心して暮らすことのできる地域社会を実現するためにすべきことを定めています。

「自らの安全は自らで守る」、「地域の安全は地域で守る」という考え方のもと、市民自らが立ち上がり、犯罪、事故、災害などを未然に防止する活動を行う組織として「始良市 防犯・暴力追放協議会」が設立されています。

この協議会では、地域の安全パトロールや自治会防犯灯の設置、修繕、球替えなどの事業を行っており、始良市は協議会に対し、補助金を交付して支援しています。

地域安全パトロールは、7つのパトロール隊に計122人の隊員で組織され、昼夜を問わず、地域の通学路や駅周辺などを巡回し、見守り活動をしていただいています。

自治会防犯灯については、現在およそ5,500灯が設置され、地域の道路を照らしており、毎年およそ150灯が新設されています。

始良市では、防犯灯の新設とともに、既に設置されている防犯灯の多くが「蛍光灯」であることから、より明るく、省エネ効果のある「LED灯」への転換を推進しているところです。

防犯カメラについては、2016年度と昨年度で、市内のJR5駅と加治木町本町交差点付近の6か所に設置しており、本年度も人通りの多い場所や犯罪発生を抑止効果のある場所、2か所を選定して設置する計画です。

次に、3問目の「大雨などの災害への対応について」のご質問にお答えします。

始良市では、地域防災計画や危機管理指針などを定め、土地の保全と市民の生命、身体、財産を災害から保護することを最大の目的として各種災害対応をしています。

海岸線と森林に囲まれた始良市は、風景のきれいな自然条件にありますが、それだけ風水害、地震、津波・高潮、火山噴火などの自然災害の被害を受ける可能性が考えられます。

そのようなことから、災害防止の取組と市民の安全安心の確保は、市の重要な責務と考えています。

昨年7月の「九州北部豪雨」、先月の西日本一帯を襲った記録的な豪雨、「平成30年7月豪雨」のように、大雨の降る地域に限られる「局地化」、同じ場所に降り続ける「集中化」、被害の程度がはなはだしい「激甚化」と、大雨に伴う災害は、災害想定、予測が非常に難しくなってきたと言われています。

このような想定や予測の難しい自然災害に対しても、「身の安全は、自ら守る」、いわゆる「自助」が防災の基本であることから、始良市では、平常時の災害に対する備え、災害時には、市民自らが身の安全を守る判断行動ができるように、早く正確な情報を伝えるための拡声器やメール、FMラジオなど、いろいろな情報伝達の方法を整備しています。

さらに、避難所となる集会施設の整備、そして丸太棒や土のう袋などの保管量をふやしています。

そして、市民の皆さんが、災害の怖さを知り、災害時には冷静に対応する方法などを防災訓練や研修などを通じてお伝えしているところです。

先月5日の市内全域での「緊急地震速報訓練」の実施結果について、全ての中学校にアンケート調査を行ったところ、防災行政無線の受信状況について、4校が「全体的によく聞き取れた」、1校は「チャイムは聞こえたが、放送内容は聞き取りづらかった」との回答でした。

また、緊急地震速報を受信してからの行動訓練は2校が実施し、その内容は、「校内放送を流した」「机の下に隠れるなどして身を守った」との回答をいただいています。

なお、その際の課題については、「型どおりの「訓練のための訓練」になっている」との自己評価をされ、抜き打ち型の訓練が必要ではないかとの意見もありました。

今後も「自助」に加え、「自分たちの地域は自分たちで守る」、いわゆる「共助」、「市、消防、警察、自衛隊などが災害から守る」、いわゆる「公助」による、防災体制の連携が非常に大切なことから、防災対策の計画的推進を図っていきたいと考えています。

○教育長（小倉寛恒君）

登壇

2 問目の「学校へのクーラー・冷水機の設置について」のご質問にお答えします。

最近の異常気象により、熱中症にかかる児童や生徒がふえており、夏場の教育環境が年々悪化しているということは十分認識しています。

現在、市内の小・中学校では、図書室や一部の特別教室にはクーラーを設置していますが、普通教室にもクーラーを設置することで、降灰・暑さ対策に非常に有効であるということも十分理解しているところです。

始良市教育委員会では、小学校と中学校へのクーラー設置について、より少ない財政負担による導入はできないか検討しているところですが、今後も、できるだけ早く導入できるよう時期や方法などについて検討していきたいと考えています。

また、現在、児童・生徒の皆さんには、必要に応じて学校に水筒を持参し、水分補給をしていただいているところですが、冷水機などの設置についても熱中症対策として有効と考えますので、今後、衛生面や管理方法、設置スペースなどについて検討していきます。

なお、回転する蛇口が少ないということについては、順次、点検を実施し、蛇口の修理・交換を進めていきます。

以上、お答えいたします。

○5 番（川田絃喜君） 1 つ目の街灯の設置数増加について質問します。大通りについての対策は理解しましたが、やはり、怖いのは人気の少ない通りなのです。そのことについてはどうお考えですか。

○市民生活部長（黒木一弘君） お答えいたします。

議員言われるように、路地とかそういったところが暗いということでございますので、市としましては、スクールゾーン対策委員会というのが学校にあるかと思えます。そういったところで、こういったところを指摘していただく、それから、自治会長さん方から要望という形で承っておりまして、それについて、現場を実際見に行きまして、検討して、設置していくという形で設置のほうを考えているところであります。

以上でございます。

○5 番（川田絃喜君） 同じく、1 つ目の質問について質問します。回答の中から、犯罪に対しての策は分かりましたが、防犯・暴力追放協議会の活動の内容である事故に対する活動内容は具体的にどういったものですか。地域内には十分に整備の行き届いていない箇所や河川があったりします。事故を防ぐため、どういった対策をお考えですか。

○市民生活部長（黒木一弘君） お答えの中で、地域安全パトロール隊の活動ということではしているわけですが、事故が多発している場所、不審者等があったところを重点的にパトロールを行っている。

それと、このパトロール隊の乗っている車に年次的にですが、ドライブレコーダーを付けております。現在のところ、10数台であります。交通安全対策に一役かえるのではないかとということで活動しているところでございます。

以上でございます。

○5番（川畑結香君） 2つ目の学校へのクーラー・冷水機の設置について質問します。回答に、クーラー・冷水機の設置については検討を行い、回転する蛇口が少ないということについては、順次、点検を実施するとありますが、点検・検討はいつごろから行いますか。

○教育部長（竹下宏君） まず、クーラーの件から申し上げます。昨今のこの暑さというものは特に異常なものがありまして、生徒・児童の皆さんには大変苦しい暑い中で、授業を受けていらっしゃるということで、難儀をにかけていると考えております。

クーラーの設置につきましては、先ほどの教育長の答弁にもございましたとおり、少ない財政負担で導入が出来ないかということで、過去数年間検討を続けているところです。ただし、市の財政の優先度といいますか、他の福祉、健康増進といったような部門にかかる必要のある予算というのが必要なことから、なかなか今のところ、学校へのクーラー設置というところまでは至っていないというところでございます。

回転する蛇口についての点検ですが、現在、教育委員会の施設担当の職員の方で、学校のほうを巡回しておりますので、そのたびに学校のほうから今の状況等を聞いているというところでございます。

○5番（川田絃喜君） 3問目の大雨などの災害への対応について質問します。私たち学生にとって、防災訓練などは、定期的に行うものなので意識がありますが、地域としてはどうお考えですか。避難所や町なかでの対処についてあまり周知されていないと思います。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

小、中、高におきましては、消防本部等におきまして、防災訓練等を法的なものもありますので実施しております。

地域におきましては、出前講座というのがあります。それらを活用して地域住民の方々に防災意識の向上を促しているところでございます。

以上でございます。

○5番（川畑結香君） 緊急地震速報訓練の実施結果について、1校は、チャイムは聞こえたが放送内容は聞き取りづらかったとの回答があったと書いてありますが、実際に避難しないといけない事態となったときに、放送内容が聞き取りづらいと危険な場面があると思います。それに対しての対策は何か考えていますか。

○教育部長（竹下宏君） 緊急地震速報の放送については、市内全域に流れるわけですが、学校施設と特に緊急放送等が必要とする校舎内の放送施設については、各学校からも老朽化が進んでいるということで、点検をしていただきたいというような話も来ております。

教育委員会のほうでも早急な点検をして、こういう緊急地震速報等の流れる必要のある大事な施設と認識はしておりますので、早急に対応はしていきたいと考えております。

以上です。

○5番（川畑結香君） 先ほどと同じですが、緊急地震速報を受信してからの行動訓練は2校しか実施していないという回答がありました。緊急地震速報訓練の行動訓練を2校しか行わなかったら、緊急地震速報訓練の意味があまりないように感じられます。全校行動訓練をしたほうが良いのではないのでしょうか。

○教育部次長兼学校教育課長（小林俊一郎君） お答えいたします。各学校で避難訓練等は計画的にされていると思います。この2校については、まず2校やってみて、その効果を確認しながら市内全校に広げていく、こういう趣旨で今やっているところだと思いますので、それぞれの学校には、これからそのやり方等については、案内がいくと思います。

お答えといたします。

○5番（川田絃喜君） 加治木は錦江湾に面しているので、津波や高潮の被害が大きくなると思います。そういったことに対しての対策はどうお考えですか。

○危機管理監（庄村幸輝君） お答えします。

当市におきましては、議員が仰せのとおり、桜島、錦江湾を臨んでおります。そこで、鹿児島湾直下地震、桜島北方沖海底噴火、南海トラフ等を想定しております。

地域住民の方に早く逃げる、そして、自分でも早く逃げてもらふというような認識を持っている為に、我々出前講座そして広報紙、また、それらの媒体を使いまして、地域の方々に情報を流しているところでございます。

以上でございます。

○5番（川田絃喜君） とても丁寧に、また真剣に、私たちの質問に答えてくださり、ありがとうございました。以上で質問を終わります。

○議長（上野魁十君） これで5番、加治木中学校 川田絃喜議員、川畑結香議員の一般質問を終わります。

○議長（上野魁十君） ここでしばらく休憩します。5分間程度とします。

なお、後半は議長を交代し、川田議長が会議の進行をおこないます。

（午前10時58分休憩）

○議長（川田絃喜君） 議長を交代しました。休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午前11時03分開議）

○議長（川田絃喜君） 一般質問を続けます。6番、蒲生高校 上野魁十議員、永岩大翔議員の発言を許します。

○6番（上野魁十君、永岩大翔君） 登壇

皆さん、おはようございます。6番 蒲生高校の上野魁十です。同じく、蒲生高校の永岩大翔です。

それでは、先に通告した始良市の保育施設と待機児童の現状及び今後の見通しについて、小学校・中学校における未納金の状況と児童手当による未納対策についての2問を質問します。

まず1つ目の、始良市の保育施設と待機児童の現状及び今後の見通しについての質問をさせていただきます。

私の親は共働きで毎日働いてくれています。また、私には1歳の幼い弟がいます。私の母は深夜に仕事をしているので、夜はぼくが弟の面倒を見ています。私の母は深夜から仕事が終わって帰宅後、弟の面倒を見るのが毎日大変そうです。そこで、弟が保育施設等で過ごせればまだ母の負担は軽減されるのではないかと思います。

そこで、現在の始良市の保育施設の状況と待機児童の状況について市当局に伺いたい。また、当市は、県内で唯一人口が増加傾向にある自治体であり、今後の見通しを含めて回答をお願いしたい。

それでは、2問目の小学校・中学校における未納金の状況と児童手当による未納対策についての質問をさせていただきます。

子育てに対して国や自治体で様々な政策支援や経済的な支援が実施されていますが、小学校・中学校で給食費や納入金を納めていない保護者がいることを聞いたことがあります。また保護者の中には、児童手当を子どもの養育のために使用

せず娯楽などに使用している方が存在していると聞いたことがあります。

そこで、市当局へ小・中学校における納入金の未納状況やその未納への対応について、また、未納の家庭については児童手当を直接に学校へ未納分として対応できないか、お伺いしたいと思います。

これで、質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君）

登壇

蒲生高等学校2年 上野魁十議員、永岩大翔議員からいただいた、2つのご質問にお答えします。

なお、2問目の「小学校・中学校における未納金の状況と児童手当による未納対策について」のご質問は、小倉教育長がお答えします。

それでは、1問目の「始良市の保育施設と待機児童の現状及び今後の見通しについて」のご質問にお答えします。

保育施設は、親が働いているなど、何らかの理由で家庭において十分な保育時間が確保できない場合に、家庭に代わって子どもを保育する施設です。

始良市には、県の認可や届出により設置されている保育施設が37か所あり、その内訳は、保育所14か所、保育所と幼稚園の機能を持ち合わせた「認定こども園」が12か所、0歳から2歳の子どもを少人数で保育する「小規模保育施設」が2か所、会社や病院などが設置する「事業所内保育施設等」が9か所となっています。

保育時間は、午前7時から午後6時までとなっており、施設によっては延長保育を実施しています。

また、始良市における待機児童については、本年4月1日現在で62人となっています。

始良市においても、他の自治体と同様に、国の政策や社会背景などから、女性の社会進出や就労形態の多様化が進み、保育所への入所希望者は年々増加している状況です。

しかしながら、施設の増設や定員の増加などの対策を行っても、追いつかない状況であり、特に0歳児から2歳児の待機児童が多くなっています。

始良市は、県内でも唯一人口が増加している市であり、ますます保育施設への入所需要は高まることを予測して、対策に努めているところです。

始良市の独自推計では、2025年までは人口は増加傾向にありますが、その後は減少に転じるとしており、全国的にも少子化が加速すると予想しています。

今後の見通しとしては、待機児童の解消に向けた取組と併せて、少子化に向けた対応も視野に入れた取組が必要であると考えています。

○教育長（小倉寛恒君）

登壇

2問目の「小学校・中学校における未納金の状況と児童手当による未納対策に

ついて」のご質問にお答えします。

学校に納入するものには、副教材費、PTA会費、学年・学級費、文化体育振興費などの校納金があり、それ以外に給食費もあります。

校納金や給食費は、年度当初に、年間を見通した額を保護者に示し、年間9回から10回に分けて、学校の集金や銀行口座引き落としにより徴収しています。

現在、明確に示すことができる、平成28年度の学校給食費の未納状況を例に挙げると、児童・生徒数およそ6,700人に対して学校給食費の総額は年間およそ3億1,230万円になり、未納額は、およそ193万円で、徴収率は99.38パーセントでした。

未納者への対応については、学校が電話や文書、個別の面談により、支払いのお願いをしているところです。

また、児童手当を直接に学校へ未納分として対応できないかというご質問についてですが、児童手当は、国が定める児童手当法に基づき、家庭等における生活の安定と次世代を担う児童の健やかな成長に資することを目的に、15歳以下の児童を養育している保護者に給付されています。

また、児童手当法では、学校給食費等の学校教育に伴う必要な費用は、保護者の申出に基づき徴収することができると定められています。

具体的には、児童手当を支給する前に保護者から「給食費を児童手当から支払います」との申出があった場合にのみ、児童手当から徴収することができます。

したがいまして、児童手当から直接学校が未納分として徴収することは、本人からの申出がない限り、法律上できないところです。

以上、お答えといたします。

○6番(永岩大翔君) 始良市における待機児童は、本年度4月1日現在で62人となっていますが、前年度と比べるとどういった数字となっているのでしょうか。

○保健福祉部長(松元滋美君) お答えいたします。

本市におきましては4月1日で62名でしたけれども、昨年4月の段階では39名となっておりまして、昨年と比べてふえているという状況でございます。

以上です。

○6番(永岩大翔君) 始良市の独自推計では、2025年までは人口は増加傾向にありますとありますが、2025年までの人口増加において待機児童についての問題がまた出てくると思います。そのことについて具体的な対策は何ですか、教えてください。

○保健福祉部長(松元滋美君) お答えいたします。

始良市におきましては、待機児童、全国的な問題でもあるんですけども、1・

2歳児が多い部分について女性の就労率の増加とかいろいろな原因が考えられます。また、ご夫婦の共稼ぎによってお子さんを預けられるところが少なくなってきたと。

あと、人口の自然増でいけば、大体600人ちょっとの出生なんですけれども、それが年々経つうちにその同じ年数の子どもたちが数十人ずつ増えてきている状況もございますので、いろいろな状況を始良市としての状況を、いま待機児童の緊急対策委員会というのをつくっていますけれども、今年早急にその分析をして2025年問題といたしますか、2025年問題までは人口はふえていくんですけれども、それが緩やかにまた減少していくという見込みもたっておりますので、そこに対する施設の数とかどうすれば待機児童が減らされるのか。各施設に定員の数を調整をお願いしたいとかそういうかたちで短期的なお願いと、また長期的な計画をその対策委員会の方で今、計画をしているという状況です。

○6番（永岩大翔君） 私たち始良市民は待機児童についての対策について、何かできることはありますか。

○保健福祉部長（松元滋美君） 始良市におきましては、市の中では人口が増加しているという非常にありがたい状況でもあります。人口が増えるということは、それぞれに子育てのサポートをしていく必要が出てくる。

また、高齢者におきましても、2025年度まではふえていき、また緩やかな減少をたどるんですけれども、おじいちゃん、おばあちゃんたちのサポートもしていかなければならないということでございます。

ここについては、行政だけではなくて例えば地域とかいろんな企業とかいろんな団体の人といろいろな意見を交換しながら力を合わせて取り組んでいくという社会的に一緒に取り組んでいくという考え方で今からやっていかないとはいけませんので、いろいろなご意見等がありましたなら、いつでもいいですのでご意見をいただきたいですし、一緒になって方法とかアイデアとかそういうものを集めながらやっていければと思っているところです。

○6番（上野魁十君） 私が小学生の時には校納金未納者が多く、この先給食を作れなくなる可能性があるとして学校だよりが毎月のように配布されていたので、私は校納金の徴収率があまりよくないと思っていました。ですが徴収率がほぼ100パーセントに近いということでとても良かったと思います。

これで私たちからの質問を終わります。

○議長（川田絃喜君） これで6番、蒲生高校 上野魁十議員、永岩大翔議員の一般質問を終わります。

○議長（川田紘喜君） 次に、7番、加治木高校 廣川妃菜議員、満園峻輔議員の発言を許します。

○7番（廣川妃菜君、満園峻輔君） 登壇

加治木高校2年の廣川妃菜です。同じく満園峻輔です。

3点質問させていただきます。

まず1つ目、駅周辺のまちづくりについてです。

老若男女、さまざまな人々が日々利用している駅周辺のまちづくりについて、中高生や高齢者に焦点を当てた取り組みの具体的な案はありますか。また、駅周辺のまちづくりの際に配慮していることはありますか。

2つ目に、農業の振興についてです。

新規事業者に支給する奨励金は、具体的にどれくらいの金額ですか。また、定期的な巡回指導は誰がいつどのように行っているのですか。若者に農業の魅力を伝えるための具体的な活動があれば教えてください。

3つ目に、Free Wi-Fiの設置についてです。

Free Wi-Fiの需要は年々高まっており、設置は観光客誘致にもつながると考えます。公共施設等への設置について計画はありますか。

以上で演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君） 登壇

加治木高等学校2年 廣川妃菜議員、満園峻輔議員からいただいた、3つのご質問にお答えします。

まず、1問目の「駅周辺のまちづくりについて」のご質問にお答えします。始良市では、まちづくりの基軸として、JRの駅を中心としたまちづくりを考えています。

駅は、単に、鉄道やバスの乗降場所としての機能だけでなく、人が集い、立ち寄る場所としての機能も持ち合わせています。

駅やその周辺の整備を図ることにより、賑わいが創出され、イメージが変わり、地域や市の活性化につながると期待しています。

整備にあたっては、関係機関や関係団体などとの協議を重ねながら、利便性や機能性に加え、すべての人にとって使いやすいユニバーサルデザインへの対応を図っていきます。

中学生・高校生のニーズとしては、駐輪場の整備や送迎の駐車スペースの確保、楽しんで歩けるようなストリートなどではないかと思われそうですが、日頃、駅を利用される中学生・高校生のアイデアを募ることも考えています。

始良市では、今後とも、世代間で異なるニーズに対応しながら、また、それぞれの駅が持つ特性を活かせるような、まちづくりを検討していきます。

次に、2問目の「農業の振興について」のご質問にお答えします。

新規に参入する農業者への奨励金には、国から支給されるものと、始良市が独自に支給するものがあります。

まず、国から支給される奨励金は、「農業次世代人材投資資金」と言い、就農前の研修を後押しする「準備型」と、就農直後の経営確立を支援する「経営開始型」の2つのメニューがあります。

いずれのメニューについても、原則として45歳未満の方が対象で、年間で最大150万円が交付され、その期間は準備型では最長2年間、経営開始型では5年間となっています。

次に、始良市が独自に支給する奨励金は、「新規就農者奨励金」と言い、新規に参入する農業者への就農奨励金として20万円、営農奨励金として月額5万円を支給します。

交付期間は、普通栽培農家は2年間、有機栽培農家は3年間となっています。

また、新規の後継農業者へは、後継奨励金として30万円を支給します。

対象者は、50歳以下で年間250日以上就農日数が見込まれることなどの要件があります。

次に、巡回指導については、蒲生総合支所の農政課内に、人材育成を主な業務とした「農政コーディネーター」を配置し、定期的に新規就農者の農場点検と巡回指導を実施しており、将来の始良市の農業を担う人材育成を行っています。

また、若者に農業の魅力を伝える活動としては、一部の小・中学校では、田植えや稲刈りの体験を、さらに中学生や高校生が市役所に職場体験で来られたときには、職員と一緒に農作物の調査を行うなど、農業に触れあう機会を設けています。

始良市は、有機農業に取り組む農業者が多く、鹿児島県内でも先進地であることから、「有機の郷 あいら」を目指し、環境にやさしい有機農業を強力に推進しています。

今後、様々な機会を利用しながら若い方にも「有機農業」をはじめ、農業の魅力を伝えられるようPRしていきたいと考えています。

次に、3問目の「Free Wi-Fiの設置について」のご質問にお答えします。

通常私達が、「Wi-Fi」という呼び方をするときは、インターネットにつながる無線通信の形の全体をそう呼んでいます。

無線ですので、Wi-Fiに対応したパソコン、タブレット、スマートフォンなどをもって、Wi-Fi無線アンテナの許容範囲内に入ると、いつでもインターネットにつながることができます。

これは、室内だけでなく、野外でも利用できるため、現在、始良市では、蒲生観光交流センターの室内外、龍門滝の滝見台付近、重富海岸のなぎさミュージアム付近の3か所にフリーWi-Fiのアンテナを設置しています。

観光地への設置目的は、その地を訪れた方々が、始良市が発信している観光ア

プリ「ココシルあいら」の情報を閲覧し、県外はもとより、海外へも情報発信してもらうことを期待して、観光戦略の一環として設置しています。

今後も、観光地へのWi-Fiアンテナの設置を進めていきたいと考えています。また公共施設などについても、災害避難所に指定されている公民館や体育館などには設置し、避難している人たちが情報から孤立しないための効果的な方法として、現在検討しているところです。

その際、同時に検討しなければならないのが、不正アクセスによる情報漏れの問題への対応としてセキュリティ対策があります。

今後、市内の公共施設へのフリーWi-Fiの設置については、市民の求めるところを見極めながら、また、セキュリティ対策、設置に要する経費も含めて検討したいと考えています。

以上、お答えといたします。

○7番（満園峻輔君） これから、再質問をさせていただきます。まず、1つ目の駅周辺のまちづくりについてです。回答の中に、それぞれの駅が持つ特性という言葉がありましたが、それぞれの駅が持つ特性とは、具体的に何でしょうか、回答をお願いします。

○市長（湯元敏浩君） 始良市には5つの駅があります。この8万人弱の規模でJRの駅が5つあるというのは、全国的に見ても非常に恵まれている珍しい地域であります。この駅を利用してまちづくりをする、これは、始良市の必然だと思っています。

その5つの中でもまずは、昔からあった3つの主要駅、鹿児島市側からいくと、重富駅、帖佐駅、加治木駅という駅前というものを、まずは対象にしようと思っております。

重富駅は、鹿児島市からの玄関口、始良市の顔でございます。そういったところの特性を生かして、海との連携も含めて開発していければいいなと思っています。

帖佐駅は、大型ショッピングセンターのイオンタウンがありますので、その入り口としての若者が集まるそして、市外から来る人たちへのストリートとして、そういった駅前のまちづくりをしていきたいと思っています。

加治木駅は、昔ながらの伝統と落ち着いた雰囲気の中で人が交流するような広々とした雰囲気がありますので、それを生かした駅前のまちづくりをイメージしています。

以上でございます。

○7番（満園峻輔君） 回答の中に、世代間で異なるニーズに対応するとあります。回答の中に、中・高校生のニーズに関しては書かれていましたが、それ以外の世代へのニーズに関してはどう考えているか、回答をお願いします。

○市長（湯元敏弘君） 現状で駅を利用する人といいますと、中学生、高校生、車の免許を持たない方、お年寄りの方々、そういった方々が考えられます。始良市はアクセスがいいという反面に、車で移動するということが非常に便利なところです。そう考えて、JRを利用する人というのは、そのような年代に主になると思います。

では、中高生以外の年代にどう対応するかというと、いま、例えば帖佐駅などは、障がい者や高齢者の方々には非常に厳しい駅環境でございます。ですので、それをバリアフリー化、そして、ユニバーサルデザイン化をして、使いやすくしていきたい。

その条件として、3,000人の乗降客が必要ということもありまして、加治木駅と帖佐駅がこれをクリアを、帖佐駅は前年度これをクリアしていますので、バリアフリー化に向けて、働きかけて行きたいと思っています。

○7番（廣川妃菜君） 一つ目の質問の回答に、日頃駅を利用する中学生・高校生の考えているアイデアを募ることの考えているとありましたが、具体的にアイデアを募る方法がありましたら、ご回答をお願いします。

○企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君） いま考えていますのは、お二人とも加治木高校でありますので、加治木駅を使っているのかなと思っているところですが、例えば、アンケートであるとか、あるいは、学校にお願いをしてご意見を集めていただく、そういった方法が出来ないか考えているところですが、他にもですね、皆さんがたからアイデアがございましたら、お知らせいただければありがたいなと考えているところであります。

以上でございます。

○7番（満園峻輔君） 今の回答にあった中高生のニーズに対するアイデアの募り方ですが、やはり、中高生は、スマホに触れている時間が長いということもあるので、先ほどありました「ココシルあいら」等を活用してネットでのアンケート等を行えば、より充実したアイデアを募ることが出来るのではないかなと思います。

○企画部次長兼企画政策課長（松林洋一君） まさしく、皆さん方の年代というのは、スマホでの利用というのが多い世代であろうというふうに考えます。それを有効に活用するというのは、大変有効な策というふうに考えますので、それをどうやっていけるのか、その方法について検討させていただきたいと思います。

以上でございます。

○7番(満園峻輔君) 駅周辺のまちづくりを行う際に、駅を人が集う場所にしていくと回答の中にありましたが、人が集う様な場所にしていってしまうと駅周辺にさまざまな店が並ぶことなどが予想されます。それが大規模になってしまえば、若者にとってのニーズとしてはにぎやかになりとてもいいと思うのですが、高齢者のニーズとしては、やはり駅を利用する際に分かりやすさ等も必要だと考えています。

その場合、高齢者にとって全てが便利なものとはならないと思うので、若者と高齢者のニーズを同時に叶えることを完全に実現することは、とても難しいことだと考えています。それについて、どう思われますか。

○企画部長(宮田昭二君) お答えします。

加治木高校のあります、加治木地区のことでお答えしますが、現在、かもだ通り商店街というのが加治木駅前通りの西のほうにございますが、先ほどの討論にもありましたとおり、商店街の疲弊化というのが進んでいる状態でありますけども、冷静に考えますと、加治木地区には公立高校と私立高校3校の高校があります。さらに、中学校もあるわけでして、その人数を合わせますと3,000人近くの若者が日々地区を動いているという状況でもあります。

したがって、商店街のほうの活性化の意見もいただきながら、さらに、加治木駅前につきましては、若者とそれから、高齢の方々の憩いの場所といった形のスペースを考えていきたいというふうに考えています。

以上でございます。

○7番(廣川妃菜君) 駅周辺の整備にあたって、利便性や機能性に加え、すべての人にとって使いやすいユニバーサルデザインへの対応を図っていくとありましたが、具体的に駅でのユニバーサルデザインは、どのようなものを考えていらっしゃるでしょうか。

また、それに伴い、現在、車椅子の方が階段を使えず、駅の3番乗り場など向かいのホームまで行けない状況です。早急に対応していただくことは、出来ないでしょうか。

○企画部次長兼企画政策課長(松林洋一君) まず、バリアフリーとユニバーサルデザインの違いでございますが、バリアフリーは、障がいのある人が社会生活をしていくうえで、障がい、バリアとなるものを除いていく、ユニバーサルデザインは、それに対して、障がいの有無、年齢、性別、人種等に関わらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方ということでありますので、まさしく、多様性に対応するといったようなことになると思います。そのような考え方でやっていきますよといったようなことでの答えであります。

それから、加治木駅につきましては、先ほど市長答弁の中にもありましたよう

に、1日の乗降客数が3,000人を超えますと、バリアフリー化の事業対象となつてまいります。したがいまして、昨年度、設計を終えていますので、本年度、もうしばらくしますと、バリアフリーの工事が始まるというふうになっているところでございます。

以上でございます。

○7番(満園峻輔君) 駅周辺のまちづくりに関してなんですけど、駅周辺のまちづくりの際に、もし大規模な改装を行うとなれば、例えば、錦江駅は前に団地があったり、加治木駅周辺にも住宅がたくさんあったりもするので、大規模な改装を行うことは難しいと思いますが、どう思いますか。

○市長(湯元敏弘君) 規模の大きさというものは、それぞれの駅によって違うと思いますね。駅の抱える特徴というものがあります。もちろん住んでいる住民の方々に不具合があるような駅というのは、これは、皆さんが使う駅としては不適當だと思しますので、住民の方々と相談しながら、いつも使っている方々との、一番近くにいる方々との賛同を得ながらやらなければならないと思っています。

以上です。

○7番(満園峻輔君) 各駅前についてですが、5つの駅があつて、その規模の差というのは、いま回答をいただいたとおりであると思うのですが、規模の差が生まれれば、結局は、始良市全体に人が集まるというよりは、例えば、始良市の中でも特に帖佐駅周辺のみに人が集まるという形になってしまうと思うのですが、それについてはどうお考えですか。

○市長(湯元敏弘君) ちょっと言葉が足りなかったようです。規模という中には、役割というのも入っています。帖佐駅はやっぱり、イオンタウンを抱える駅、加治木駅は学生さんがいっぱいいる駅、重富駅は始良市の顔としての最初の入り口の駅、そして、錦江駅・始良駅は住宅街の方々の通勤通学に乗っていく駅、そういったそれぞれの役割というのがあると思います。規模というものの大小というよりも、役割に沿った駅づくりをして行きたいとそう思っております。

○7番(満園峻輔君) 2つ目の質問の農業の振興についての質問をさせていただきます。農業の活性化を進めていくと、その分耕地面積等も確保することが必要になると予想されます。環境面への配慮の面も踏まえて、耕地面積の確保については、どのようにお考えですか。ご回答をお願いします。

○農林水産部長(岩下直司君) お答えいたします。

現在始良市内には、水田・畑それぞれ役割を持った耕地がございます。特に今、

中山間の山手の地域では作り手がいなくなって、土地が荒れたりしているところもありますけれども、耕地の確保につきましては、その土地をうまく活用して、出来なくなった耕地を次の後継者の方が作ったり、あるいは、担い手と呼ばれる農業を専門的にやられる方が作ったり、そういった形での土地の利用、あるいは、狭い区画を広く区画整理を行って、作りやすく時間も集約されて、作業効率のいいような区画に整理して使うなど、作業がしやすいような耕地面積の確保に取り組みたいと思っております。

以上です。

○7番（廣川妃菜君） 若者に農業の魅力を伝える活動として、小・中学校では、田植えや稲刈りの体験、中学生や高校生などでは職場体験での体験など設けてあるとありましたが、学生だけでなく、これから仕事に就くであろう20代の若者などに農業の魅力を伝えるための活動がありましたら教えてください。

○農林水産部長（岩下直司君） 小中高生については、答弁の中で申し上げたとおりであります。社会人になられた方が、農業に対しての魅力を感じることがどういことが出来るか、というのは非常に難しい問題でありまして、農業で生計を立てていくのは、並大抵なことではないというふうに考えております。

市ですとか、他の関係機関の方々とも協力して、農業に対する夜間の講座、そういったもので農業の栽培の魅力ですとか、今後の農業のあり方とか、そういったものを社会人になられたら、昼間は働いていらっしゃる方がほとんどだと思いますので、夜間に農業に関する講座を開いて、興味を持っていただくとか、出来る範囲で呼びかけて興味を持っていただくような努力も必要かなというふうに思っております。

以上です。

○7番（満園峻輔君） 若者に農業の魅力を伝える活動のひとつとして、質問というよりは提案になるんですけど、高校生や中学生を対象として、例えば、稲刈りのボランティアなどを実施したらいいと思います。その際にボランティアではありますが、参加してくれた人にその際、若しくは、それ以前にその田んぼ等で刈り取ったお米をあげたり、そこで炊いて昼ごはんとして提供したりすれば、ボランティアとして、ボランティアに来てもらった農家さん側も助かりますし、中学生高校生側も農業の魅力を感じると共に、そこで出来たもののおいしさ等も味わえて、とても両方にとって、素晴らしいことになるのではないかと思います。

○農林水産部長（岩下直司君） おっしゃるとおり、貴重な体験の後に汗を流して、そこで出来上がった農作物を口にすると非常にいいことだと思いますので、市内の小中学校、あるいは、高校の皆さん方にもそういった体験が出来ないか、授業

日数とかいろいろ問題はあると思いますけれども、体験・経験が出来るような形で少し検討をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○7番（満園峻輔君） Free Wi-Fiの設置についての回答の中に、「ココシルあいら」というアプリに関することが書いてありました。回答の中に「ココシルあいら」というアプリがあったので、アプリを検索してみました。自分の端末ではアプリが出なかったの、ホームページ版の方を閲覧させていただきました。

その「ココシルあいら」のホームページを開いてパッと見たときに、もっとそのサイトを閲覧したいと思うような魅力的とはいえないような印象を受けました。もっとパッと見たときに、始良に行ってみたいと思うような魅力的な、ホームページ、またアプリの方は見ていないので分からないのですが、アプリの方、改善したほうがいいのではないかと思います。それについて、どうお考えですか。

○企画部長（宮田昭二君） お答えします。

「ココシルあいら」につきましては、いわゆる既存のアプリに市が参加している状況でありまして、なかなかそれを市独自に改善することは出来ませんが、それを運営している会社もあることですので、そういった意見があることを直接、お伝えして、少しでも使い勝手のいいアプリにしていきたいと思いますというふうに考えます。

以上でございます。

○7番（満園峻輔君） 最後の質問になりますが、本日のさまざまな内容について、市民への周知が一番大切かと存じます。その中で最も有効で手間のかからない方法は、やっぱり「ココシルあいら」のアプリであるとか、ホームページだと考えます。

しかし、私たち若者世代は、市町村ホームページを進んで閲覧したりすることはまず無いと考えます。また、高齢の方々にとっては、そのようなアプリやホームページの内容を閲覧するということだけでも、一苦勞だと考えられます。どのように周知を進めていくのがよいとお考えですか。また、何か周知に関する対策があれば、ご回答をお願いします。

○総務部長（福留修君） この皆さんにお知らせする方法というのは、ひとつの方法というわけではなくて、例えば、インターネットだけでというわけではなくて、始良市の広報紙でお流ししたりとか、または、学校の方へいろんな形で情報をお流しするとか、いろんな方法があると思います。

例えば、防災無線で、拡声器でいろんな情報を市のイベントの情報を流したりすることもありますけれども、そのような形で、重層した形で複合的な方法で情

報を流していくということに今後も勤めていきますし、努力していきたいと。

先ほど出ました、いろんな施設を利用してもらおうということも含めて、そういう形で市民の皆さんにお知らせしていけるよう工夫してきたいというふうに思います。

以上です。

○7番(満園峻輔君) 市民への周知に関する提案みたいな感じですが、自分たちは学生なので駅をよく利用するんですけど、電車を待っている時間は特にやることも無いので、そういうときに閲覧できるような、何か工夫があればよいのかなと思いました。

以上で、質問を終わらせていただきます。本日の内容は、自分たちにとってもとても関係の深い事だと思うので、家族や友人等また話を広げていけたらと思います。

○議長(川田絃喜君) これで7番、加治木高校 廣川妃菜議員、満園峻輔議員の一般質問を終わります。

○議長(川田絃喜君) 次に、8番、龍桜高校 米徳有華議員、玉利紀香議員の発言を許します。

○8番(米徳有華君、玉利紀香君) 登壇

皆さん、こんにちは。8番、龍桜高校3年の米徳有華です。同じく、龍桜高校3年の玉利紀香です。

1 観光について、2 子育て環境づくりについて、3 交通アクセス整備についての3つについて質問させていただきます。

1つ目の観光についてです。

かごしま国体を開催するにあたって競技が無事に行われることや、選手・関係者に対してのおもてなし等、姶良市へ来られた方々に具体的にどのような活動を行う予定でしょうか。

2つ目の子育て環境づくりについてです。

総合的な子育て環境づくりの推進の一つとして行っている小児救急医療体制の整備と充実というのは、どのような取り組みを行っていますか。

3つ目の交通アクセス整備についてです。

朝・夕の時間帯の渋滞が慢性化しているように思います。人口が増えているのに対して交通整備が追いついていないと思います。

鹿児島市北部と姶良市の交通アクセスを改善すれば、互いに行き来することが容易になり、もっと発展すると思うので、何か具体的に実行していることや計画があるのか知りたいです。

以上で演壇からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君）

登壇

龍桜高等学校３年 米徳有華議員、玉利紀香議員からいただいた、３つのご質問にお答えします。

なお、１問目の「観光について」のご質問は、小倉教育長がお答えします。

それでは、２問目の「子育て環境づくりについて」のご質問にお答えします。

小児救急医療体制の現状について、姶良市には、小児科を掲げている医療機関が１０を超えており、それぞれで診療時間を延長し、対応されています。

また、夜間においては、概ね３０分圏内で受診できる霧島市の医師会医療センターや鹿児島市の夜間急病センターがあり、小児救急の受入れが可能となっています。

その他、急な発熱や腹痛のときなどに、経験豊富な看護師が、応急処置や医療機関の受診の必要性などの相談に対応する小児救急電話相談があります。

また現在、姶良市内には、２４時間体制で、休日や夜間における医療確保を目的とした「二次救急医療機関」が２か所あり、救急患者などの受入れも可能となっています。

さらに、姶良地区内において、小児科の医療機関も含め、休日当番医を設け、日曜・祝日の急病などにも対応しています。

姶良市では、子どもの救急相談などの情報について、ホームページ、広報紙、子育て便利帳、Ｗｅｂアプリ「母子モ」などで、市民の方々に広く周知・広報を行っているところです。

次に、３問目の「交通アクセスの整備について」のご質問にお答えします。

国道１０号は、鹿児島市と姶良市を結ぶ、最も重要な幹線道路であるとともに、鹿児島県の産業・経済・観光などの発展を図る上でも重要な路線です。

姶良市脇元から白浜までの３．４キロメートルは２車線の対面通行であり、平日朝の通勤時間帯には交通渋滞が発生し、救急車などの緊急車両等の通行にも影響が出ています。

国土交通省 九州地方整備局 鹿児島国道事務所では、昨年度より、脇元地区から４車線化に向けた工事に着手しており、日豊本線の跨線橋架設工事など、年次的に整備を計画されています。

また、県 姶良・伊佐地域振興局では、鹿児島市吉田地区から姶良市蒲生地区へ通じる県道 伊集院・蒲生・溝辺線の蒲生工区整備について、年次的な整備を実施されています。

さらに、姶良市では、蒲生地区の市道 奥之宇都線の宇都トンネルの工事を、鹿児島市と連携して、本年度から工事に着手し、整備の推進に努めていきます。

○教育長（小倉寛恒君）

登壇

1 問目の観光についてのご質問にお答えします。

2020年に開催される「かごしま国体」において、始良市では、バスケットボール、女子ゴルフ、ライフル射撃（センター・ファイア・ピストル）の3つの競技会場となっています。

そのため、関係団体や行政が一丸となって対応策を講じることはもちろん、市民総参加のもとで、おもてなしの心を前面に押し出した受け皿づくりを進める必要があります。

そこで、始良市では、地域や競技団体、支援団体、行政などで構成する「燃ゆる感動 かごしま国体・かごしま大会 始良市実行委員会」を組織し、始良市を訪れる方々へのおもてなしや歓迎のあり方などを織り込んだ基本計画を策定する予定です。

その具体策については、今後取り組むこととなっていますが、国体を開催した先進地例などを見ると、各自治体が持つ歴史、文化、芸術や郷土料理、特産品を活かしたおもてなし、さらには、学校や関係団体等による各都道府県応援団の結成、競技会場や沿道、公共施設等をたくさんの花で飾る「花いっぱい運動」などが行われているようです。

始良市においては、地元の小・中・高校で児童・生徒の皆さんが独自に考案された、おもてなしや歓迎に対する取組を全面的に支援していきたいと考えています。

今後とも、市民の英知と総力を結集した、心のこもったおもてなしと、始良市の魅力や活力があふれる国体を目指していきたいと考えています。

以上、お答えいたします。

○8番（米徳有華君） 2つ目の子育て環境づくりについての質問です。子どもの救急相談などの情報について、ホームページや広報紙、Webアプリなどに記載されているとありましたが、私は知りませんでした。ほかにも始良市の方々の中で知らない人も多いと思います。そのような知らない人に対してより広めるためにはどのような方法をお考えでしょうか。

○保健福祉部長（松元滋美君） ありがとうございます。

今年の4月から、去年はテストでスタートしたんですけれども「母子モ」というアプリをスタートしております。これにつきましては、スマートフォンのなかで誰でも入れてご自分のお子様の成長記録とか健康管理とか予防接種とかそういうものが分かるようになっておりますし、また、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんと連携した情報共有できるということで、非常に良いシステムアプリだと思っているところです。

また、おっしゃいましたように広報紙、あるいはこの始良市子育て便利帳、これも毎年更新しながらやっているところです。

知らない方も実際たくさんいらっしゃるということは、大きく重く受け留めたいと思います。いろいろな広報あるいは地域での集会とかいろいろな場面で私どもも、このアプリ、広報紙をご紹介して、若い方は当然このアプリについては、どんどんお友達同士で話していただければ広がっていくと思いますのでそれも期待しているところです。

今後ともどうぞ、ご協力、サポート、ご意見等がありましたなら、また、お聞かせいただければと思います。

以上です。

○8番(玉利紀香君) 2問目の子育て環境づくりについてです。小児救急電話相談について、電話の対応をしている時間帯、毎日対応できるのかと一日にどれ位の相談件数があるのかを教えてください。

○保健福祉部長(松元滋美君) 救急電話の相談センターにつきましては、県内統一で小児救急電話相談ということで、シャープの8000番ということでしております。ダイヤル回線などからは、099-254-1186ということで県として一体でやっている相談体制でございます。

これについては、24時間、月曜日から土曜日が19時から翌朝8時まで、日祝、年末年始が8時から翌朝8時までということで、始良市の市民の皆さんのアンケートを確認しますと約5割程度がこの電話を利用されているということです、この電話についても一層周知していければと思っております。

以上です。

○8番(玉利紀香君) 小児救急電話相談は、私たち学生が大人になった時に必要になるものでもあり、また、子育て世代の人口が増加している始良市において、子育て世代の方々にとって助かる取組だと思います。今後、この取組で安心して生活できる子育て世代の方々がふえることを期待したいと思います。

次に、3問目の交通アクセス整備についてです。10号線の整備が少しずつ進められているとありますが、交通渋滞の緩和の実現には時間がかかると思います。現在、始良市から鹿児島市方面に向かう10号線前にどこどこまでに何分という内容の掲示板がありますが、どこが渋滞しているのか何キロ渋滞しているのか事故や大雨情報などリアルタイムでなるべく詳しい情報を掲示することは可能ですか。

○建設部長(徳部健一君) お答えいたします。

10号線は非常に重要な道路で、市民の皆様も行きつく先の時間が分からないと。そのような苦情も来ることでございます。ご質問のありました情報については、国土交通省が掲示板を管理運営しております。その中で、緊急時には、国道

事務所の方で掲示することとなっておりますが、その詳しい状態、どこの場所で事故があって、どれだけ時間がかかるのかということには掲示物では限界があると思いますので、緊急時にはラジオ等でも放送されることが以前もございましたので国土交通省の方にまた確認をしてどのようなことができるのか、お話を伺いたいと思っております。

以上です。

○8番(米徳有華君) 3問目の交通アクセス整備についての質問です。10号線は鹿児島県の産業、経済、観光などの発展を図るうえで重要な路線とありましたが、10号線を区別しているコンクリートのところに雑草が生えており、個人的に印象が悪いというふうに思ったのですが、そこを整備するという計画はありますか。

○建設部長(徳部健一君) お答えします。

草が生えているというところは姶良市に入ってから場所になりますかね。草の話が出ましたのでついでも、国土交通省も草の管理については道路沿いに人家があるところを主にやっておるところでございます。ご質問のありましたところなどは、人家が無い場所であり草が繁茂しております。その場所につきましては、4車線化に伴いまして、そこが使われないということではなくて、市道へのアクセスということで道路敷きとして、今後整備されるということになっております。

以上です。

○8番(米徳有華君) 1つ目の観光についての質問です。かごしま国体を開催するにあたってのピーアール活動や姶良市の広報活動を2019年に行われる高校総体のピーアール活動と一緒にすることも、より姶良市を多くの人に知ってもらう機会となるのではないかと考えます。どう思われますか。

○教育部長(竹下宏君) お答えします。

2020年のかごしま国体の開催に向けての広報ピーアール活動については、市民一丸となって盛り上げていこうというようなことで、いま実行委員会を立ち上げているところでございますが、その前年度に高校総体があるということでございます。当然、高校総体と関連づけながらピーアール活動を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○8番(米徳有華君) 龍桜高校では、高校総体のピーアール活動として加治木駅周辺のゴミ拾いや校内での活動をしています。文化祭ではポスター作成をして来校してくださる方々への広報活動も行っていこうと思っています。

来年度に向けてポスターを貼ったり、スクールバスも通っているので、スクールバスでのピーアール活動もできると思います。

龍桜高校全体で様々な活動に取り組んでいきたいと思います。

丁寧な回答ありがとうございました。

以上で質問を終わります。

○議長（川田絃喜君） これで、8番、龍桜高校 米徳有華議員、玉利紀香議員の一般質問を終わります。

○議長（川田絃喜君） 次に、9番、加治木工業高校 内村辰良議員、郡山樹議員の発言を許します。

○9番（内村辰良君、郡山樹君） 登壇

9番、加治木工業高等学校の内村辰良です。同じく、加治木工業高等学校の郡山樹です。

早速、質問させていただきます。

1つ目は、公立大学法人短期大学の設置について質問します。

このような上級学校を設置することで、どのような利点があるのか知りたいのと、始良市には看護系の専門学校等はあるが、今回も同様の学科を設置するのか教えていただきたいです。

2つ目の商店街の過疎化についてです。

イオンタウンなどの大型ショッピングモールの設置により始良市全体は活性化されていると思いますが、小さな商店街にあるお店などが閉店している様子が見られ、商店街が閑散としています。市として何か対策はあるのか教えてください。

3つ目の地元就職についてです。

昨年度も質問させていただきましたが、工業高校で学んだ知識を地元始良市で生かしたいと考えている生徒は多いですが、なかなか専門的な企業が少なく県外へと流出している現状があります。職種を選ばなければ県内や地元での就職先もありますが、折角、工業六学科で専門知識を学び、これを生かせるような就職ができるよう始良市全体で企業誘致などは考慮していただけないでしょうか。

これで、壇上からの質問を終わります。

○市長（湯元敏浩君） 登壇

加治木工業高等学校3年 内村辰良議員、郡山樹議員からいただいた、3つのご質問にお答えします。

まず、1問目の『公立大学法人短期大学』の設置についてのご質問にお答えします。

始良市の人口移動をみると、15歳から24歳までの若者の転出が多い状況にあり、これは、進学や就職により、若者が都市圏などへ転出しているものと推測され、これが始良市の弱みでもあります。

設置を予定している公立大学法人による短期大学には、超高齢社会への対応として、今後も需要の増加が見込まれる分野、例えば、看護学科などを検討しています。

大学設置の利点としては、高等教育の機会の増加や人材育成の場の醸成、地域活性化に加え、大学を設置することにより、経済波及効果が大きいとする調査結果もあり、地域経済にもたらす影響など、複合的な効果が期待できます。

公立大学法人による短期大学の設置は、より多くの若者が始良で学び、本市を含めた周辺地域で就職できるという夢と希望を与えることにつながり、若者を始良市に引きとめ、引き寄せる策の一つになると考えています。

次に、2問目の「商店街の過疎化について」のご質問にお答えします。

始良市では、イオンタウン始良など大型商業施設の開業により、地元の小売店や飲食店等が、どのような影響を受けているのか、また、今後の商店街のあり方などを研究目的とする商工業者景況調査を、昨年度までの2か年間、実施しました。

この事業は、若い世代の目線や感覚で現状を捉えて、提言していただくために、鹿児島国際大学経済学部 of 学生の方々に調査協力をいただいたものです。

その報告書から、商工業者の意識高揚と商店街の活性化につながると考えられる、幾つかのアイデアを提案していただいています。

この提案を受けて、始良市では、本年度、加治木町かもだ通り商店街をモデル地域に指定して、県商店街活性化・人材育成支援事業に取り組んでいます。

その中で、県商店街振興組合や外部専門員からの助言のほか、地元の高校生にも参加をいただき、若い世代の意見が反映できる機会を設けています。

また、始良市では、商店街活性化のための方策として、空き店舗活用事業補助制度を設けています。

この制度は、市内の空き店舗を活用して、新規開業される方に対して、家賃の一部を補助するもので、2013年度の制度開始以降、22件の助成を行っています。

今後も、空き店舗の解消に向けて、この補助制度の充実を図っていきたいと考えています。

次に、3問目の「地元就職について」のご質問にお答えします。

市制施行後、始良市では、23社の企業を誘致しており、その多くが加工や製造などの工業系に分類される企業となっています。

市外からの新たな企業の進出のほか、市内の既存企業においては、生産力向上のために機械設備を新たに導入するなど、生産規模の拡大を図るなかで、雇用促進につながろうとする企業が増えてきています。

始良市では、今後とも、工業系を中心とした新たな企業の誘致、さらには、生産力向上を図ろうとする既存企業などの取組を積極的に支援していきます。

さらには、学校・企業・行政の三者が連携して、皆さんが望まれる、地元就職の実現に結びつくような雇用機会を創り上げたいと考えています。

現在、担当部署において、市内の高等学校に出向いての合同企業説明会の実施や、市内企業との協働での求人ミニ説明会を開催するなど、新卒者や若い世代の方々を地元に取りとめ、企業の人材確保につながる手立てを講じているところです。

以上、お答えいたします。

○9番（郡山樹君） 再質問をさせていただきます。市長は看護学科以外の学科を検討していないということでしょうか。

○市長（湯元敏浩君） そういうことはまったくございません。やはり総合大学というのを目指すといろいろな運営費、そして様々な弊害もいっぱいありますので、最初は国の施策にのっとった高齢社会に対応するエキスパートを育てるための看護系の介護も含めた、そしてリハビリも含めた看護系のコースをつくっていくということが最初でございます。もちろん皆さん議員の世代のときにどんどん大きく成長していくならば、ほかの学科・学部そういったものも成長の過程として大学の成長の過程としてあるということは当然先の予想としてはあります。

しかし最初から総合大学ということではございません。成長していく過程での学部・学科の増設それはあり得ます。もしかしたら何十年か先には附属中・附属高校というのもあり得るかも知れません。

その先の可能性というものはまずは最初の一步をスタートしてからだと思っております。

以上でございます。

○9番（郡山樹君） スマートインターチェンジなどの利便性を考えたら旧始良町に設立することになると考えますが、そうしますとイオンタウン始良のように旧始良町だけが盛り上がり、旧蒲生、加治木町は現状が維持となってしまうと思いますが、どう考えられておりますでしょうか。

○市長（湯元敏浩君） 大学の設置については、まだ設置の場所についてはまったく白紙でございます。でも、そのなかに学生が通いやすい利便性の高い所にしたいという方向性があります。ですので、皆さんそれぞれイメージされている利便性というのがあると思いますけれども、いろいろなパターンのことを考えながらやっていきたいと思っておりますので、まだまだどこが候補ということはまだ考えておりません。

以上でございます。

○9番(内村辰良君) 2問目について質問させていただきます。人材支援事業など地元の高校生に参加してもらい、若い世代の意見が反映できる機会を設けてあったと思いますが、高校生は運営やボランティアに参加するだけになっていると思います。どのように意見を聞いているのでしょうか。

○企画部長(宮田昭二君) お答えいたします。

今回のこの人材育成支援事業でございますが、こちらにつきましては鹿児島県が事業者となりまして行った事業でございます。本年度におきましては、加治木地区におきまして6月29日に開催されております。

今年度は、いちき串木野市と2か所の開催となっております、その中で参加された方々の様々な意見を聞いております。参加者としましては、市をはじめ、商工会、かもだ通商店街の方々、それからきょうおいでの龍桜高校の方々にも参加いただきまして若い意見もお聞きしているところでございます。

以上でございます。

○9番(内村辰良君) 3問目の地元就職に対し質問します。加工や製造など工業に関する企業の誘致を行っているとはありますが、実際は化学など専門性を生かせる企業は少ないと聞いています。23社の中に本当に専門性が生かせる会社はいくつあるのでしょうか。

○企画部長(宮田昭二君) お答えいたします。

答弁にありました23の事業所の中で、いわゆる業種的には製造業が20業者でございます。残りにつきましては、流通業者でございます。したがって、その製造業者の中の管理部門等で専門的な知識が生かせるのではないかとというふうに考えております。

以上でございます。

○9番(内村辰良君) また企業誘致の件ですが、どのようなかたちで行っているのですか。

○企画部長(宮田昭二君) 昨年の同じ回答から今回の回答までに5社の新たな企業誘致が実現しました。これにつきましては、1年間で5件ということは評価に値するのではないかと考えておりますけれども、しかしながら議員ご指摘のとおりそれがご自分達の学んできたことに繋がっていないというミスマッチがあることは事実でございます。

したがって、積極的な誘致これを引き続き行ってまいりますけれども、い

わゆる先ほど申しましたとおりマッチングの問題もあります。

新たな企業誘致につきましては、市長自らのトップセールスも含め、それから県外でご活躍いただいておりますふるさと大使の皆様方にも情報をいただきながら、引き合いは結構あるわけですが、なかなか市の思惑とマッチしない部分もございますので、引き続き積極的に誘致につきましては進めてまいりたいというふうに考えます。

○9番（郡山樹君） 始良市の考えが良く分かりました。ありがとうございました。

○議長（川田絃喜君） これで、9番、加治木工業高校 内村辰良議員、郡山樹議員の一般質問を終わります。

○議長（川田絃喜君） これをもって、すべての一般質問を終了いたしました。
ここで、小倉教育長から講評をいただきます。

○教育長（小倉寛恒君） 登壇

本日は、若者議会議員の皆さん、お疲れ様でした。

質問された皆さんの堂々とはきはきした態度に感銘を受けたところです。

また、議長を務めた2人の議員、川田議員、上野議員、共に初めてとは思えないさばき方で大変見事だったと思っております。

今回、皆さん方から、中学生・高校生を代表して始良市のあり方について質問をしていただきました。多岐にわたる課題を若者の目線で質問していただいたことは、始良市の行政に新たな風を吹き込んでいただいたと考えております。

一人一人が自らの生活を振り返るとともに、市全体の課題を明確につかんでいく様子が伺え、そこには、郷土始良市に対する強い思いと将来への展望に思いを馳せていることを心強く感じることでした。

始良市は、鹿児島県内で最も「住みやすいまち」という評価を得て人口も増加傾向にあります。まち中には大型商業施設が建設され、交通網が整備される中、まちには活気があふれていると思います。

その一方で、今回ご質問いただいたように、福祉のあり方や様々な施設のあり方、環境を取り巻く問題、そしてソフト面における仕組み作りなどについて、まだまだ課題もあるところです。

行政は、こうした課題に議員の皆さんと協力しながら、よりよいまちづくり・人づくりに努めているところです。

さて、議会制民主主義の我が国においては、選挙において、議員が市民から選ばれ、選ばれた議員は、市民からの負託に応えるべく、東奔西走するとともに、議会において、行政の進めていることや、今後進めるべき施策、予算の使い方などへのチェック機能を持っています。

このように、みんなで話し合い、物事を決定していくという仕組みは、国はもとより、各都道府県、各市町村で行われていることであります。

こうした仕組みについて、中・高校生の皆さんには、今回の体験をそれぞれの学校の生徒会活動などに生かしていただきたいと考えております。そこでは、生徒の意見を聞きながら、今後の生徒会のあるべき姿や方向性、また、より充実した学校生活への取り組みについて、議論を深め、実行していくことが求められていきます。よりよい学校づくりの一助となっていくと期待しています。

最後になりますが、今回の若者議会に御協力いただきました各学校の先生方や保護者の皆様に厚くお礼を申し上げるとともに、議員を務めていただいた中学生、高校生の皆さんのよりよい成長を心から期待し、講評とします。皆さん、ご苦労さまでした。

○議長（川田絃喜君） ありがとうございます。

次に、森川市議会議長からごあいさつをいただきます。

○市議会議長（森川和美君） 登壇

議長の森川でございます。議会を代表して、少し時間が過ぎておりますが、少し時間をいただいて話をさせていただきたいと思っております。本日は、若者議会の議員の皆さん、生徒の皆さん大変にご苦労様でございました。鋭い再質問というのが出て、私たち議員も大いに参考にすべき点がございました。

私たちは、18歳になると代表を選ぶ選挙権の権利、その後一定の年齢になると選挙に出て、市民の皆さん、住民の皆さんのための代表となる資格があるわけですね。

参議院議員と都道府県知事は30歳以上。衆議院議員と県議会議員、市区町村長、市区町村議会議員は25歳以上になっています。ご承知のとおり、選挙権が18歳からになったわけですが、これは、昭和20年以来、実に70年ぶりに18歳から選挙権が与えられたことになったわけですが、是非、そのようなことを踏まえて、それぞれ高校・大学を卒業されて、それぞれの町に住まわれるわけですが、その町のいわゆる最高の長である、あるいは、議員さんによって、その町の暮らしやすくするしないという大きな影響が出てくると思います。是非ひとつですね、これを機会として、冒頭、市長からもありましたが、この機会だけではなくて、きょうのこの機会を得て、家族と年に一・二回でも政治のことについて、話を進めていただきながら頑張っていただければと思っております。

それと、就職の件が出ましたが、平成30年の3月卒で、高校生で県外に出た方が45.5パーセント、県内が54.5パーセント、短大生で県外に出て行かれた方が15.5パーセント、県内が84.5パーセント、大学生で県外が51パーセント、県内が49パーセントだということで、是非ひとつですね、始良市内に、鹿児島県内に残っていただいて、この政治に関心を持っていただいて、こ

の皆さんの中から大いに活躍される方が出られるように期待をいたしまして、簡単でございますが、私のあいさつとさせていただきます。

本日は本当にご苦勞様でございました。

○議長（川田絃喜君）　ありがとうございました。

ここで少しお時間をいただき、若者議員を代表して、お礼の言葉を述べさせていただきます。

本日は、私たちにこのような機会を与えてくださり、また、長時間にわたり、私たちの質問に真剣にお答えくださり、本当にありがとうございました。今まであまり関わる機会がなかった始良市の政治について、見識を深めることができ、とても勉強になりました。選挙権年齢の改定などが行われたいま、次世代の社会を担う一員として暮らしの中のさまざまなことに関心を持ち、大人の皆さんと一緒に考え行動していきたいと思います。

本日は、ありがとうございました。

○議長（川田絃喜君）　以上で、本日の議事日程は全部終了しました。したがって、本日の会議を閉じ、平成30年度始良市若者議会を閉会します。

（午後12時25分閉会）

以上、記録の内容が正確であることを証するためにここに署名する。

始良市若者議会議長（前半）

上野 魁十

始良市若者議会議長（後半）

川田 絃喜

会議録署名議員

玉利 紀香

会議録署名議員

米徳 有華